

学 校 運 営

運営報告	9
教務委員会	9
学生委員会	1 8
学寮委員会	2 0
専攻科	2 2
人文科学部門	2 6
自然科学部門	2 8
機械工学科	3 0
電気情報工学科	3 2
電子制御工学科	3 4
建設システム工学科	3 6
図書館	3 8
情報科学センター	4 0
教育研究支援センター	4 2
地域共同テクノセンター	追加
社会基盤メンテナンス教育センター（iMe c）	4 4
国際交流センター	4 6
知的財産委員会	4 7
生命倫理委員会	4 7
情報セキュリティ推進委員会	4 8
評価委員会	4 9
資料部会	5 0
広報委員会	5 1
教育プログラム（MDE）委員会	5 2
進路指導委員会	5 3
学生相談室	5 4
修学支援室	5 6
入試広報部会	5 7
留学生委員会	6 1
教育改善委員会	6 3
FD・ICT部会	6 4
交通対策検討委員会	6 6
安全衛生委員会	6 7
緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ	6 8
男女共同参画室	7 1
施設マネジメント委員会	7 3
入学前ICT教育WG	7 4

K O S E N型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築	7 7
学科・部門別教員一覧	7 8
教職員数	9 0
学校行事日程	9 1

教 務 委 員 会

教務主事 川田 昌克

1. 教務委員会の構成と役割分担

令和3年度は、教務主事、副主事、各学科・部門から教務主事補1名の他、原則、学科長・部門長および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和3年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表1のとおりである。

表1 役割分担

役 職	氏名	所属	主たる役割分担	備考
主 事	川田昌克	S	総括	
副主事	加登文学	C	委員長代行，専攻科との連携，ポートフォリオ教育の実施	専攻科長
主事補	室巻孝郎	M	出欠確認システム，成績評価資料の保管，達成度評価，ポートフォリオ教育の実施，分野横断的能力の育成の実施	専攻科 MS コース長
	丹下 裕	E	インターンシップ	後期から
	伊藤 稔	S	学年暦，ICT ツールの活用，分野横断的能力の育成の実施	学術情報センター長
	渡部昌弘	C	試験時間割，海外研修旅行，実験スキル計測の実施	専攻科 CA コース長
	山根秀介	人文	英語教育，修学支援，再試験，学力不振者対策，ピアサポーター育成の実施 学生情報の集約および共有の実施	
	宝利 剛	自然	Web シラバス・MCC，入試広報との連携，データに裏付けされた教育改善の実施，学生情報の集約および共有の実施	FD・ICT 部会長 資料部会長
委 員	西山 等	M	M 科取りまとめ・調整，達成度評価	MDE 委員長
	内海淳志	E	E 科取りまとめ・調整，実験スキル計測の実施，データに裏付けされた教育改善の実施	E 科学科長
	野間正泰	S	S 科取りまとめ・調整	S 科学科長
	尾上亮介	C	C 科取りまとめ・調整	C 科学科長
	田村修一	人文	人文科学部門取りまとめ・調整，RST	人文科学部門長 2 年学年主任
	奥村昌司	自然	自然科学部門取りまとめ・調整，データに裏付けされた教育改善の実施，入学前 ICT 教育	自然科学部門長 1 年学年主任
	山口秀朗	事務		学生課長
	富田 誠	事務		学生課課長補佐 (兼教務係長)

2. 新型コロナウイルス感染症の対応について

2.1 概要

令和3年度に京都府に発令されたまん延防止等重点措置および緊急事態措置の期間を表2にまとめる。また、新型コロナウイルス感染症対策に伴う本校の学事日程の変更を表3にまとめる。

表2 令和3年度に京都府に発令された措置

4月12日(月)～4月24日(土)	まん延防止等重点措置	第4波
4月25日(日)～5月31日(月)	緊急事態措置	
8月2日(月)～8月19日(木)	まん延防止等重点措置	第5波
8月20日(金)～9月30日(木)	緊急事態措置	
1月27日(木)～3月21日(月)	まん延防止等重点措置	第6波

表3 令和3年度の新型コロナウイルス感染症対応(教務関係を中心として)

4月29日(木, 祝日)	通常授業
5月13日(木)～5月19日(水)	臨時休校
5月20日(木)～5月21日(金)	遠隔授業
5月24日(月)	対面授業再開
6月8日(火)～6月11日(金) (4年生のみ6月14日(月)まで)	前期中間試験(4年生以外は1日短縮して4日間で実施)
7月13日(火)～7月19日(月)	特別時間割により2週分実施
7月22日(木, 祝日)	通常授業
7月23日(金, 祝日)	通常授業
8月5日(木)～9月20日(月, 祝日)	夏季休業(当初計画から1週間延長)
9月21日(火)～9月24日(金)	遠隔授業(後期授業)
9月27日(月)	対面授業再開
9月27日(月)～9月29日(水)	前期到達度確認(対面授業開始後に変更)
10月29日(金)	午前:特別授業, 午後:高専祭準備
10月30日(土)～10月31日(日)	高専祭(当初計画から半日間短縮, 10月31日(日)午後は片付け)
12月25日(土)～1月10日(月, 祝日)	冬季休業
1月11日(火)～1月13日(木)	対面授業
1月14日(金)	臨時休校
1月17日(月)～2月4日(金)	遠隔授業
2月7日(月)～2月10日(木)	後期期末試験(2日短縮して4日間で実施)
2月15日(火)	遠隔授業(特別授業)
2月16日(水)～2月18日(金)	遠隔授業(後期到達度確認)
3月18日(金)	本科卒業式/専攻科修了式を実施(時間短縮, 参列者限定)

2.2 遠隔授業の実施

令和3年度は、4～5月(第4波)、8～9月(第5波)、1～3月(第6波)の3度、新型コロナウイルス感染症の拡大時期があった。本校においても、同時期に罹患者が発生したため、対面授業の継続が困難であると判断した段階で、遠隔授業への切り替えなどの措置を行った。

遠隔授業は、昨年度と同様、MoodleやMicrosoft Streamsを利用した「オンデマンド型」を基本とし、朝のショートホームルーム(SHR)は、リアルタイムでの繋がりを重視するために、Microsoft Teamsを利用した「双方向型」とした。また、前年度に引き続き、通信環境に不安がある学生数名に対しては、無線WiFiルータ(20Gbyte/月)やパソコンを貸し出した。第4波、第6波の期間については、開寮後の措置であったため、様々な理由で帰省が困難な寮生がいた。これら寮生については、学寮の滞在を認め、通学生とともに学校内での遠隔授業の受講も認めた。

第4波に伴う対応では、5日間の臨時休校と2日間の遠隔授業の後、対面授業を再開した。臨時休校期間中の授業を補うため、7月13日(火)から19日(月)の1週間、特別時間割により2週間分の授業を実施した。

第5波に伴う対応では、当初、9月13日(月)から夏季休業後の対面授業開始を予定していたが、感染拡大状況を鑑み、1週間の夏季休業を延期するとともに、9月21日(火)から9月24日(金)の間は

遠隔授業に切り替えた。そして、対面授業を9月27日（月）に開始し、3日間で前期期末試験の到達度確認を行った。また、高専祭期間の短縮、球技大会の平日開催中止などといった学事日程の変更を行った。

第6波に伴う対応では、いったん、冬季休業後の1月11日（火）から対面授業を開始したが、これまでにない急激な感染状況の拡大に対応するため、1月14日（金）を臨時休校した後、1月17日（月）から2週間程度を目処に遠隔授業に切り替えた。その後、拡大状況は改善されなかったため、2月4日（金）までの授業をすべて遠隔授業で実施することにし、後期期末試験の一部を課題提出に切り替えるなどして、後期期末試験の期間を4日間に短縮し、対面で実施した。また、自宅待機者に対しては、遠隔で試験を実施した。さらに、通常は対面で実施する到達度確認は遠隔で実施することにした。

2.3 授業時間

通常時であれば、1科目90分が基本であるが、学寮での密にならない食事や入浴の時間を確保し、かつ、通学生のバスの運行時間を考慮して、やむを得ず80分短縮授業とした。

2.4 教室開放

昨年度に引き続き、学生の授業時間外での学習場所を確保するため、平日は19時30分まで、土日祝日は16時30分までHR教室、図書館1階を開放した。また、定期試験2週間前からは曜日によらず20時30分まで開放した。

3. 令和3年度の主な取り組み

3.1 本科入学試験の制度変更

令和3年度に実施する本科入学試験の制度変更を行った。変更点は以下の通りである。

- (1) 特別選抜の募集人員の割合を50%程度から60%程度に変更した。これに伴い、学力検査選抜の募集人員の割合を50%程度から40%程度に変更した。
- (2) 特別選抜を地域創生型と一般推薦型の2つのタイプとした。一般推薦型は従来の特別選抜に準じたものである。
- (3) 従来、特別選抜は出願資格として3年間9科目の合計を99以上としていたが、地域創生型は出願資格の内申点として3年間9科目の合計を108以上に引き上げた。一方で、一般推薦型は出願資格の内申点の数値を明記せず、優秀であることとした。
- (4) 地域創生型は適性検査の代わりに地域面接を実施し、地域創生の意欲を評価した。また、地域創生型で合格内定とならなかった者は自動的に一般推薦型の出願者となることにした。

3.2 新しいカリキュラム・ポリシーに対応したカリキュラム・フローの制定

令和4年度入学生からは新しい三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）が適用される。これに伴い、新しいカリキュラム・ポリシーに対応したカリキュラム・フローを制定した。

3.3 機関別認証評価の指摘事項（改善を要する点）の対応

令和2年度に高等専門学校機関別認証評価を受け、改善を要する点として以下の2点が指摘された。

- (1) 一部の授業科目において、本試験と追試験で同一の試験問題が出題されている、成績評価の方法が適切とはいえない点がみられる。（観点5-3-①）
- (2) 卒業認定基準を明示し、担任を通じて学生には周知しているものの、学生の認知状況を学校として把握・確認する取組は十分とはいえない。（観点5-3-②）

令和3年度からこれら指摘事項に対応するための方策を実施することとした。まず、(1)については、再試験・追試験が本試験と同一問題でないことを確認するために、該当する試験問題を提出することを義務付けることとした。つぎに、(2)については、カリキュラム変更により卒業要件が異なっていることを考慮し、学年に応じて以下のように対応した。

- 本科2・3年生（新カリキュラム）：前年度までの成績に基づいて作成された修得単位確認表を配布した。学生自身は修得単位確認表の内容を確認し、Formsに認知できたかを入力した。また、学校側は学生の認知状況を把握し、認知できていない学生に対しては、別途、説明会を行った。

- 本科4年生（準新カリキュラム）および本科5年生（旧カリキュラム）：前年度までの成績表および修得単位確認表（Excel ファイル）を配布した。学生はExcel ファイルに必要事項を入力することでその内容を確認し、Moodle に提出した。学校側は提出状況に基づき、学生の認知状況を把握した。

3.4 再試験の成績評価資料の電子化

令和2年度から本試験及び追試験の成績評価資料を電子化し、専用サーバに保管している。これに加え、令和3年度からは再試験の成績評価資料も電子化し、専用サーバに保管することとなった。

3.5 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請準備

文部科学省が高等教育機関に対して認定する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」は令和3年度から始まり、初年度は第1回で11校（うち高専4校）、第2回で67校（うち高専6校）が認定を受けた。国立高専機構では早期の全校の認定を目指しており、本校でも令和5年度のリテラシーレベルでの申請をするために、準備を開始した。そして、各学科で対応する科目（表4）を決定するとともに、実施体制（図1）や規程の整備を進めた。

表4 リテラシーレベルに関する対象科目

学科	対象科目
機械工学科	情報処理Ⅰ（1年）、情報処理Ⅱ（2年）、計測工学演習（3年）、数値計算演習（4年）
電気情報工学科	情報基礎（1年）、プログラミング実習（3年）
電子制御工学科	情報基礎（1年）、制御工学実験（5年）
建設システム工学科	情報リテラシー（1年）、測量実習（2年）、建設システム工学実験ⅠA・ⅠB（3年）

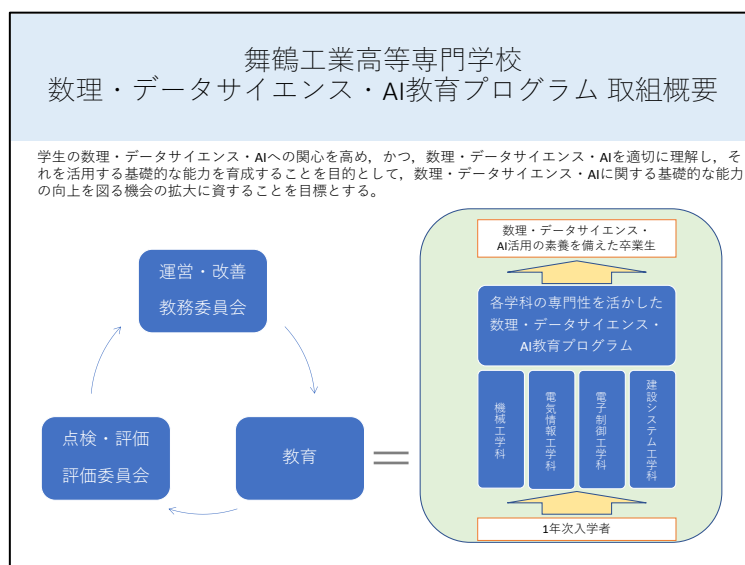


図1 実施体制のポンチ絵（案）

3.6 令和4年度からの「進級条件/学年修了条件」の変更について

現行の「進級条件/学年修了条件」についての問題点を検討し、令和4年度から条件を変更することとなった。

まず、現行の制度では同一学年での2年連続の原級留置を認めていない。しかし、学習の機会を与えるために、令和4年度からこの条項を廃止することとなった。ただし、10年間までの在籍となる条項は継続する。

つぎに、現行の仮進級という名称を廃止することとなった。現行制度では、進級に必要な単位数を基準として1単位から6単位の不足している場合を仮進級と呼んでいるが、多くの高専では、仮進級も進級扱いとしているため、本校でも進級扱いとすることにした。新制度での標準単位数、進級単位数、学年修了単位数を表5に、変更の骨子を以下に示す。

- 現行では、進級単位数は標準単位数と同じであり、1単位から6単位の不足している場合を仮進級としていた。新制度では、進級単位数を標準単位数から6単位を減じた数とした。
- 現行では、学年修了単位数は標準単位数に等しい。新制度では、進路変更する学生に配慮するため、学年修了単位数を進級単位数とした。ただし、3年次修了に関しては、特例として進級単位数から6単位を減じた数とした。
- 現行では、実験実習科目が不可の場合は原級留置としていたが、この条項を廃止することとした。ただし、必修科目が欠席不可の場合に原級留置とする条項は継続する。

表5 新制度での単位数

		1年	2年	3年	4年	5年
標準単位数		29	59	91	133	—
進級単位数		23	53	85	127	—
学年修了単位数		23	53	79	127	—
卒業単位数	一般科目	—	—	—	—	75
	専門科目	—	—	—	—	82
	全科目	—	—	—	—	167

3.7 質保証6項目

表6 質保証6項目

項目	担当
① ポートフォリオ教育の実施	室巻・加登
② 実験スキル計測の実施	内海・渡部
③ 分野横断的能力の育成の実施	伊藤・室巻
④ データ（CBTなど）に裏付けされた教育改善の実施	奥村・宝利・内海/丹下
⑤ ピアサポーター育成の実施	児玉・岡田・山根
⑥ 学生情報の集約および共有の実施	上杉・山根

高専機構では、表6に示す高専教育の質保証6項目を第4期中（令和1～5年度）に達成することを目指している。本校では、⑤以外は教務委員会が担当しており、各担当者を中心として検討を進めている。進捗状況は以下のとおりである。

- ①については、学生が実習の成果物（加工品、図面など）をMicrosoft OneDriveに保管するとともに、「達成度確認表」を利用して達成度を確認する仕組みを構築中である。成果物の保管については、専攻科生を対象として試行した。
- ②については、年次進行で「実験スキル評価シート」の作成を行っており、令和3年度は4年までの準備を終えた。
- ③については、分野横断的能力を育成するために各学科で行っているPBL教育の現状分析を行い、整理した。また、リテラシーとコンピテンシーの2つの観点からジェネリックスキルを計測するために、3S・4M・1CAの学生を対象として、河合塾とリアセックが共同開発したPROGテストを試行的に受験し、結果解説を受講した。令和4年度は2・4年の全学生を対象としてPROGテストを実施する予定である。費用は実費であるが、後援会から半額の補助を受ける予定である。
- ④については、数学・物理・化学のCBT（Computer Based Testing）および専門（電気回路）のCBTトライアルを実施した。また、実施結果を分析してフィードバックする試みを始めている。
- ⑤については、本科1・2年生を対象として定期試験前に実施されている放課後教室に、TAとして専攻科生を配置する試みを始めた。
- ⑥については、令和3年度から開始した学生カルテの作成を継続している。また、システム上に保存されている成績等の学生情報の共有を開始した。

4. 教務関係の学事日程

令和3年度の教務関係の学事日程を表7にまとめる。

表7 令和3年度の教務関係の学事日程

4月 6日 (火)	始業式, ガイダンス
4月 7日 (水)	前期授業開始
4月 29日 (木)	授業日
5月 13日 (木) ～ 5月 19日 (水)	臨時休校
5月 20日 (木) ～ 5月 21日 (金)	遠隔授業
5月 24日 (月)	対面授業再開
5月 28日 (金)	特別授業
6月 8日 (火) ～ 6月 11日 (金)	前期中間試験 (本科1～3年, 5年)
6月 8日 (火) ～ 6月 14日 (月)	前期中間試験 (本科4年)
6月 14日 (月)	特別授業
6月 14日 (月) ～ 6月 21日 (月)	PROG 無料体験 (3S・4M・1CA)
6月 15日 (火)・22日 (火)	RST の実施 (本科1年)
6月 19日 (土)	本科4年編入学試験
6月 23日 (水)・28日 (月)・30日 (水)	RST の実施 (本科4年)
7月 7日 (水)	PROG の解説 (3S・4M)
7月 22日 (木)・23日 (金)	授業日
7月 27日 (火)	特別授業
7月 28日 (水) ～ 8月 4日 (水)	前期期末試験
8月 7日 (土) ～ 8月 9日 (月)	オープンキャンパス
8月 5日 (木) ～ 9月 20日 (月)	夏季休業
9月 21日 (火)	後期授業開始
9月 21日 (火) ～ 9月 24日 (金)	遠隔授業
9月 27日 (月)	特別授業
9月 27日 (月) ～ 9月 29日 (水)	前期到達度確認
10月 19日 (火)	英語デー, 特別授業
11月 18日 (木)	特別授業
11月 19日 (金) ～ 11月 26日 (金)	後期中間試験
12月 6日 (月)・7日 (火)・9日 (木)	CBT [数学D] の実施 (2年)
12月 10日 (金)	CBT [化学D] の実施 (1年)
12月 16日 (木)	CBT [数学B] の実施 (1年)
12月 17日 (金)	気象警報発令に伴う臨時休校
12月 20日 (月)	CBT トライアル [電気回路] の実施 (3E)
12月 23日 (木)	CBT [数学F] の実施 (3年)
12月 25日 (土)	本科入学試験 (特別選抜 [地域創生型])
12月 25日 (土) ～ 1月 10日 (月)	冬季休業
1月 8日 (土)	本科入学試験 (特別選抜 [一般推薦型])
1月 13日 (木)	CBT [物理C] の実施 (2年)
1月 14日 (金)	臨時休校
1月 17日 (月) ～ 2月 4日 (金)	遠隔授業
2月 2日 (水)	特別授業
2月 7日 (月) ～ 2月 10日 (木)	後期期末試験
2月 13日 (日)	本科入学試験 (学力検査選抜)
2月 14日 (月)	臨時休業
2月 15日 (火)	特別授業
2月 16日 (水) ～ 2月 18日 (金)	後期到達度確認 (遠隔授業)
2月 19日 (土)	春季休業開始
2月 27日 (日)	本科入学試験 (学力検査選抜追試験)
3月 7日 (月) ～ 3月 17日 (木)	2号再試験期間

5. 教務委員会での協議事項

令和3年度の教務委員会での協議事項（抜粋）を表8にまとめる。

表8 教務委員会での協議事項（抜粋）

第1回教務委員会 令和3年 4月1日（木）	(1) 今年度の役割分担について (2) 今年度の検討課題について (3) 質保証6項目の進捗状況について (4) 進路変更指導用ガイドについて (5) カリキュラム・フローとカリキュラム・ポリシーについて (6) 認証評価の指摘事項（改善を要する点）について (7) R4年度本科入学試験（特別選抜）の変更について (8) 新型コロナウイルス感染症の対応について (9) RSTの実施について
第2回教務委員会 令和3年 4月12日（月）	(1) R4年度編入学試験の実施について (2) R4年度本科入学試験の実施について (3) カリキュラム・フローとカリキュラム・ポリシーについて (4) 機械工学科のアドミッション・ポリシーの一部修正について (5) 到達度および修得単位確認について (6) 質保証6項目のサポートについて (7) PROGの無料体験について (8) 未来日の留学生の対応について (9) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う出席停止中の学生の対応について
第3回教務委員会 令和3年 4月27日（火）	（入学試験委員会と合同） R4年度本科入学試験（特別選抜）の実施について
第4回教務委員会 令和3年 4月27日（火）	(1) 定期試験実施要領の改訂について (2) 成績通知書の席次標記の変更について
第5回教務委員会 令和3年 5月13日（木）	遠隔授業の実施について
第6回教務委員会 令和3年 5月17日（月）	(1) 臨時休校に伴う対応について （前期中間試験時間割、R3年度学年暦の変更） (2) 再履修免除の承認について
第7回教務委員会 令和3年 6月8日（火）	(1) R4年度編入学試験の実施について (2) 本科入学試験の制度について (3) 入学前ICT教育について (4) 研修旅行の実施について (5) インターンシップの単位認定について (6) 学則の一部改正について (7) 成績通知書の電子化について (8) 成績評価資料の電子化について (9) 到達度確認の実施について (10) MCCの改訂の対応について (11) PROGの無料体験の実施について (12) RTSの実施について (13) 質保証6項目の進捗状況について (14) 再試験問題の資料回覧について (15) 令和2年度卒業生・修了生アンケートの結果について (16) CBTの実施計画について

第 8 回教務委員会 令和 3 年 7 月 6 日 (火)	(1) 令和 4 年度本科学学生募集要項について (2) 合同支部総会にかかわる担任面談の実施について (3) 内規の一部改正について (4) 学生情報の共有について (5) 定期試験の遠隔対応について (6) 研修旅行の実施について (7) 到達度確認作業について (8) 入学前 ICT 教育 WG のメンバー選出について (9) PROG の無料体験の実施について (10) RTS の実施について (11) 質保証 6 項目の進捗状況について
第 9 回教務委員会 令和 3 年 7 月 21 日 (水)	(1) 後期の学年暦について (2) MCC 改訂検討 WG 分野別検討委員の推薦について (3) MCC 改訂 (工学基礎「情報リテラシー」領域) の対応について (4) 定期試験の印刷について (5) 到達度確認作業について (6) 成績評価資料の電子化 (再試験) について (7) 質保証 6 項目の進捗状況について
第 10 回教務委員会 令和 3 年 8 月 26 日 (木)	(1) 後期の学年暦の変更について (2) 遠隔授業の実施について
第 11 回教務委員会 令和 3 年 10 月 6 日 (水)	(1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) の申請準備について (2) 進級条件の変更について (3) 令和 4 年度の PROG の受験について (4) 再試験の提出書類について (5) 学生表彰について (6) 質保証 6 項目の進捗状況について (7) 第 3 ブロック AL 推進研究会について (8) FD・ICT 部会による教育改善の取り組みについて
第 12 回教務委員会 令和 3 年 11 月 11 日 (木)	(1) 「進級条件/学年修了条件」の変更について (2) 放課後教室における専攻科生 TA の導入について (3) 留学生に係る補習措置について (4) 質保証 6 項目の進捗状況について (5) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討 WG メンバーの選出について (6) 到達度確認作業の進捗状況について (7) 成績評価資料のアップロード状況について
第 13 回教務委員会 令和 3 年 12 月 1 日 (水)	(1) 「進級条件/学年修了条件」の変更について (2) 学生準則の見直しについて (3) 令和 4 年度の学年暦について (4) 質保証 6 項目の進捗状況について (5) 成績評価資料のアップロード状況について (6) 令和 4 年度の出欠確認システムの運用について (7) 入学前 ICT 教育について
第 14 回教務委員会 令和 3 年 12 月 10 日 (金)	(1) 質保証 6 項目の進捗状況について (2) 電子版出席簿について (3) 到達度確認作業の進捗状況について (4) KOSEN フォーラムについて (5) Web シラバスの作成について

第 15 回教務委員会 令和 4 年 1 月 21 日（金）	(1) カリキュラム移行期の進級認定について (2) インターンシップの単位認定について（4E, 4C） (3) 後期期末試験の時間割について (4) WEB シラバス入力計画について (5) 再試験に関する資料の提出と回覧について (6) 成績評価資料の電子化（次年度の科目のリストアップ）について (7) 令和 4 年度の出欠確認システムの運用について (8) 質保証 6 項目の進捗状況について (9) 学修ポートフォリオについて
第 16 回教務委員会 令和 4 年 2 月 1 日（火）	インターンシップの単位認定について（4M, 4S）
第 17 回教務委員会 令和 4 年 2 月 16 日（水）	(1) 知識・技能審査の単位認定について (2) 編入学生に対する補習の実施について (3) 令和 4 年度非常勤講師任用計画について
第 18 回教務委員会 令和 4 年 2 月 25 日（金）	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム履修規程について
第 19 回教務委員会 令和 4 年 3 月 4 日（金）	学生の表彰について
第 20 回教務委員会 令和 4 年 3 月 22 日（火）	(1) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の転科生の取り扱いについて (2) 新カリキュラムに移行した学生の科目履修免除の取り扱いについて (3) 令和 4 年度の到達度確認作業について (4) 令和 4 年度の出席簿の更新について (5) 非常勤教員用マニュアルについて (6) 国立高等専門学校間単位互換の推進に関する実施方針について (7) 質保証 6 項目の進捗状況について (8) 令和 4 年度の定期試験を実施しない科目について (9) 卒業論文提出遅滞防止のための対応策について

学 生 委 員 会

学生主事 片山 英昭

令和3年度の学生委員会、並びに学生会・クラブの活動等は、令和2年度と比較して活動や取り組みは実施できた方であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、いくつかの取り組みおよび活動は縮小あるいは中止となった。実施されたものは新型コロナウイルス感染症の感染予防を講じたものであった。

1. 新入生支援・指導

- 4月15日（木）16日（金） クラブ紹介
 4月16日（金）17日（土） 新入生研修：
 いじめ防止仲間づくり・学びのすすめ講演会、PEER(認知行動療法)等
 5月 6日（木）～31日（月） パートナーシップ：5月11日より一旦中断、その後再開できず
 5月15日（土） 学生会新入生歓迎会：中止

2. 登校指導・交通安全指導・禁煙指導

- 4月 6日（火）～16日（金） 登校指導
 4月12日（月）14日（水） 交通安全講習会
 5月10日（月）～28日（金） 駐車指導
 9月13日（月）～22日（水） 登校指導
 9月21日（火）～（毎朝） 登校健康確認指導（健康調査確認、マスク着用指導）
 12月 禁煙巡回指導
 12月～ 2月 積雪時の駐車指導

3. 環境美化

- 6月14日（月） 第1回環境美化清掃：中止
 8月 4日（水） 第1回環境美化清掃
 11月26日（金） 第2回環境美化清掃
 2月 8日（火） 第3回環境美化清掃：中止

4. 課外活動

<学生会>

- 4月 8日（木） クラブ顧問会議
 5月 スポーツフェスタ…中止
 8月 2日（月） 学生総会：Web回答形式
 松尾寺駅周辺ボランティア清掃…中止
 秋の音楽祭in松尾寺…中止
 10月 8日（金） ベルマーレイルミネーションの点灯式
 10月17日（日） FMまいづるにゲスト出演
 10月 舞鶴赤れんがハーフマラソン2021ボランティア…中止
 松尾寺駅周辺ボランティア清掃…中止
 11月 3日（水） 球技大会
 11月 8日（月） 校長フリートーキング
 11月29日（日） 学生総会（2部制）
 1月23日（日） KBS京都にゲスト出演



<クラブ活動>

- 5月15日（土） 福井高専との交歓試合：中止、12月に部活毎で実施
 6月19日（土） Honda エコ マイレージ チャレンジ
 7月 3日（土） 4日（日） 近畿地区高専体育大会バスケットボール（第1体育館）
 7月11日（日） 近畿地区高専体育大会柔道（第1体育館）

7月14日（水）	全国高等学校野球選手権京都大会
8月25日（水）26日（木）	全国高専体育大会テニス（宮城県）
9月4日（土）5日（日）	全国高専体育大会陸上（宮城県）
10月9日（土）10日（日）	全国高等専門学校プログラミングコンテスト（オンライン）
10月31日（日）	高専ロボコン2021近畿地区大会（オンライン）
11月20日（土）21日（日）	近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（オンライン）
12月4日（土）5日（日）	全国高等専門学校デザインコンペティション（呉）
12月11日（土）12日（日）	全国高専体育大会バレーボール（山形）女子バレーボール部
12月18日（土）19日（日）	全国高専体育大会水泳（秋田）
1月6日（木）～8日（土）	第28回全国高専将棋大会（奈良）
3月8日（火）	令和3年度起業家甲子園（オンライン）
3月17日（木）	関西高専合同演奏会…中止
3月26日（土）～28日（月）	第10回全日本高専選手権バレーボール（明石）

<高専祭関係>

10月29日（金）	高専祭準備（午後のみ）、前夜祭…中止
10月30日（土）31日（日）午前	本祭（事前申込者に限定した一般公開）
10月31日（日）午後	高専祭片付、後夜祭…中止

5. 講演会

5月11日（火）24日（月）	メンタルヘルス講演会（2年生）
6月21日（月）	ネット犯罪被害防止講演会（1年生、情報科学センター共同開催）
7月19日（月）21日（水）	薬物乱用防止講演会（3年生）
7月26日（月）27日（火）	性被害者・性加害者とならないための講演会（全学年対象）
10月18日（月）	薬物乱用防止講演会（全学年対象）
2月16日（水）	薬物乱用防止講習（全学年対象）

6. その他

6月15日（火）	第1回中丹高等学校補導連絡協議会
6月21日（月）	第1回いじめに関するアンケート(web形式)
9月14日（火）	近畿地区高専学生主事連絡協議会・人権教育連絡協議会（オンライン）
10月4日（月）	第2回いじめに関するアンケート(SNS:Web形式)
10月11日（月）	避難訓練
10月12日（火）	第2回中丹高等学校補導連絡協議会
11月5日（金）	第3回いじめに関するアンケート(印刷物形式)
12月16日（木）17日（金）	第18回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修
1月17日（月）	第4回いじめに関するアンケート(SNS:Web形式):中止
2月8日（火）	第3回中丹高等学校補導連絡協議会:中止
3月12日（土）	令和3年度東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校学生指導力向上研修会:中止



学 寮 委 員 会

寮務主事 豊田 香

令和3年度の学寮運営の理念および基本方針を以下に示します。令和2年度に続き令和3年度も新型コロナウイルス感染症への対応を最優先とする年度となりました。

1. 令和3年度 学寮運営の理念

「自主性と協調性を養う」

寮生活を通して基本的な生活習慣を身に付け、人格を育成し、規則遵守の態度を養う。また、寮生活の経験に基づき友情、相互寛容など人間関係について正しい理解と自主、自律の精神を養う。

2. 令和3年度 学寮運営の基本方針

(1) 特別運営を継続

(2) 寮生活規則の遵守

二足制の維持

消灯

予告なしの寮室点検の実施

その他規則の遵守について注意喚起

(3) 安心で清潔な学寮

新型コロナウイルス感染症の対策と対応を最優先する

外周と寮内の防犯カメラ設置要望

長期休業期間の荷物の持ち帰りと専門業者による室内清掃

担当教員によるフロア巡回と清掃チェック

点呼後のフロア清掃

生活委員の活動を中心としたごみの分別と移動

不法投棄の撲滅

ゴミステーションの新設

寮室内什器の統一化と設置

寮設備の補修

給食検討委員会、栄養講座実施

寮生以外の寮内立入り禁止

(4) 自主性と協調性を育む活動

寮生会との連携と活動への教職員による支援

寮生会委員会活動への教員による支援

(5) 自習時間の徹底

自習時間の徹底

自習室の使用

(6) きめの細かい学生指導と相談体制の整備

フロアミーティングの実施

巡回指導の強化

年度途中の1年生の部屋替実施、寮室点検

禁煙・禁酒

担任との連携

3. 学寮委員会等の開催

4月 1日 (木)	第1回学寮委員会
5月26日 (水)	第2回学寮委員会
7月21日 (水)	第3回学寮委員会
11月 5日 (金)	第4回学寮委員会
11月24日 (水)	第5回学寮委員会
12月 3日 (金)	第6回学寮委員会
2月 2日 (水)	第7回学寮委員会

7月15日 (木)	主事・主事補会議
9月22日 (水)	主事・主事補会議
11月17日 (水)	主事・主事補会議
1月26日 (水)	主事・主事補会議

4. 近畿地区寮務主事会議

令和3年11月24日 (水) 明石高専, 奈良高専, 和歌山高専および本校の近畿地区国立4高専寮務主事により近畿地区寮務主事会議がオンラインにて実施された。

専攻科

専攻科長 加登 文学

1. 年間活動の概要

専攻科の年間活動の概要を表1に示す。

表1 活動内容

年 月	内 容
令和3年4月	・第1回専攻科委員会 (4/2) ・専攻科総合システム工学専攻入学式 (4/5) ・新入生オリエンテーション (4/6) ・学位申請説明会：1年生 (4/8) ・1年生，2年生研究室配属決定 ・専攻科学生のTA募集
令和3年5月	・専攻科推薦特別選抜書類選考 (5/12) ・第2回専攻科委員会（入試委員会と合同）(5/15) ・第3回専攻科委員会 (5/18) ・大学改革支援・学位授与機構への特例適用専攻科状況報告
令和3年6月	・特例適用による学位申請説明会：2年生 (6/1) ・専攻科一般学力検査選抜試験（前期）(6/20) ・第4回専攻科委員会（入試委員会と合同）(6/22)
令和3年7月	・第3ブロック専攻科長会議〔オンライン〕(7/21) ・第5回専攻科委員会 (7/27) ・前期期末試験 (7/28～8/4)
令和3年8月	・特例適用による学位申請説明会（事務手続き）：2年生 (8/3)
令和3年9月	・学修総まとめ科目「履修計画書」の確認 (9/1～9/9) ・特例適用による学位申請入力（学内締切：9/28） ・学則変更および特例適用専攻科変更の届出
令和3年10月	・学修総まとめ科目計画書提出（2年） ・特別研究基礎中間発表 (10/12) ・専攻科一般学力検査選抜試験（後期）(10/17) ・第6回専攻科委員会（入試委員会と合同）(10/19) ・コース長による学生面談（1年生）
令和3年11月	・第7回専攻科委員会 (11/9)
令和3年12月	・合同学校説明会での専攻科説明 (12/4) ・近畿地区高専専攻科長会議 (12/7) ・特別研究発表会 (12/18) ・第8回専攻科委員会 (12/20)
令和4年1月	・特別研究基礎発表会 (1/25) ・学修総まとめ科目「成果の要旨」の確認 (1/17～1/28)
令和4年2月	・特別研究論文提出 (2/3) ・専攻科特別研究報告集原稿の提出 (2/3) ・第9回専攻科委員会（MDE委員会と合同）(2/8) ・第10回専攻科委員会 (2/8) ・専攻科1年生後期期末試験 (2/7～2/10) 感染症対策のため短縮して実施 ・特例適用による学位申請入力（学内締切：2/17） ・第3ブロック専攻科研究フォーラム〔オンライン〕(2/25)

令和4年3月	・専攻科修了証書授与式：総合システム工学専攻 27 名 (3/18) ・第 11 回専攻科委員会 (3/23) ・令和 5 年度専攻科学生募集要項配布
--------	---

2. 専攻科の運営

2.1 専攻科委員会の構成と役割分担

専攻科の活動は専攻科委員会が担い、委員長、教務主事の他、学科・部門から各 1 名程度の教員および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和 3 年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表 2 のとおりである。

表 2 専攻科の運営メンバー

氏 名	役 職	主たる役割分担	備 考
加登文学	委員長	総括	専攻科長
川田昌克	委員	教務関係事項への助言	教務主事
井上泰仁	電気電子システム工学コース長	当該コースの運営，進路指導，教育関係書類の整備，特別研究審査資料等の確認	電気情報工学科
室巻孝郎	機械制御システム工学コース長		機械工学科
渡部昌弘	建設工学コース長		建設システム工学科
清原修二	委員	教育関係書類の整備，特別研究審査資料等の確認	電子制御工学科
藤田憲司	委員	国際交流 人文科学部門との連携	人文科学部門
岡田浩嗣	委員	自然科学部門との連携	自然科学部門
山口秀朗	委員	事務手続きの承認	学生課長
富田 誠	委員		学生課課長補佐
嵯峨信子	陪席	事務手続きの実施	学生課職員
中道晶子	陪席		

2.2 入学と修了

令和 3 年度入学者は、総合システム工学専攻 19 名（電気電子システム工学コース 11 名，機械制御システム工学コース 4 名，建設工学コース 4 名）であった。また，令和 3 年度修了者は，総合システム工学専攻 27 名（電気電子システム工学コース 10 名，機械制御システム工学コース 12 名，建設工学コース 5 名）であった。

2.3 入試関係

今年度から，一般学力検査選抜における英語の筆記試験に替えて，TOEIC スコア（TOEIC IP を含む）による評価を行った。

一般学力検査選抜について，令和 7 年度専攻科入試（実施は令和 6 年）より，6 月頃に実施している〔前期日程 A 方式〕，〔前期日程 B 方式〕と，10 月頃に実施している〔後期日程〕を統合し，一般学力検査選抜〔A 方式〕，〔B 方式〕として年 1 回（6 月頃）の実施とすることが決定された。これについて本校ホームページに予告文書を掲載した。

2.4 カリキュラム改正

令和 3 年度専攻科入学生から新しいカリキュラムが適用された。

2.5 特例適用専攻科変更の届出

特例適用専攻科について科目表および学修総まとめ科目担当者変更の届出を 9 月に行った。

2.6 学位授与申請

1 年生に対しては，「特例適用による学位申請説明会」を受講登録締切日前の 4 月 8 日（1 年生対象）に行い，履修単位確認と書類作成の説明をした。

2年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を6月1日に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。また、8月3日に「特例適用による学位申請説明会（事務手続き）」を実施した。9月に「学修総まとめ科目履修計画書」の確認作業を行い、10月に特例適用による学位申請の手続を行った。また、2月に当該学生に対する履修単位の確認と「学修総まとめ科目成果の要旨」の確認作業を行い、学位申請の手続を行った。そして、特例適用による学位申請に対する大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、令和4年3月、申請者全員に「学士」の学位が授与された。なお、通例（従来の学位申請方式）適用による学位の申請はなかった。

3. 学生教育関係

3.1 学生の研修

今年度行われる予定だった ISTS2021 (International Seminar on Technology for Sustainability), および JSTS2021 (Japan Seminar on Technology for Sustainability) はいずれも対面での実施が中止となった。JSTS についてはオンラインでの実施が案内されたが、本校からの参加はなかった。

3.2 研究成果の発表

専攻科では、学生が自身の研究成果を積極的に学会等で発表することを奨励している。これは、研究発表技術を涵養するためだけではなく、学外での客観的な評価を受けることによって、研究に関する新たな発見や今後の方向性に繋がるためでもある。昨年度より新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、多くの発表会が集合形式ではなく、オンライン形式となっている。発表件数の内訳を表3-1に示す（本人発表のみ）。

表3-1 学外での研究発表件数（第3ブロック専攻科研究フォーラムを除く）

所属コース名		発表件数		
		1年生	2年生	合計
電気電子システム工学	国内学会等	4	1	5
	国際会議等	2	0	2
機械制御システム工学	国内学会等	1	3	4
	国際会議等	0	1	1
建設工学	国内学会等	2	4	6
	国際会議等	0	0	0
合計		9	9	18

また、第3ブロック専攻科研究フォーラムが令和4年2月25日に、当初予定されていた対面での実施からオンラインに変更されて開催された。ポスターセッションもすべて口頭での発表を行った。本校からの発表件数の内訳を表3-2に示す。

表3-2 第3ブロック専攻科研究フォーラムでの研究発表件数（専攻科1年生）

所属コース名	発表件数		
	オーラルセッション	ポスターセッション	合計
電気電子システム工学	0	5	5
機械制御システム工学	0	4	4
建設工学	1	3	4
合計	1	12	13

3.3 インターンシップ

専攻科1年生2名が大学院の研究室でのインターンシップに参加した。企業へのインターンシップについては、コロナ感染拡大状況に伴い、受け入れ予定企業の判断ですべて中止となった。また大学院研究室もすべてオンラインへと切り替わり、日程・日数も変更となったため単位認定日数には至らず、単位認定はされていない。

例年、1年生希望者を KMITL (タイ国キングモンクット工科大学) に派遣している海外インターンシップについても、今年度は中止とし、希望者については来年度の参加を検討することとした。

3.4 新型コロナウイルス感染症対応

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和4年5月13日～19日臨時休校、令和4年5月20日～21日遠隔授業、令和4年1月14日臨時休校、令和4年1月17日～2月4日遠隔授業といった対応を行った。

また、専攻科棟 3F 研究室に、オンラインでの研究発表会参加や進路活動等に利用できる Web 会議システムのための設備を整えた。

4. 進路状況

令和3年度の進路状況を表4に示す。今年度も専攻科の求人状況は好調であり、就職希望者全員が内定をいただいた。また、大学院進学は7名となった。

表4 進路状況 (令和4年3月)

電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース
【就職】 アイテック 阪急阪神 NTT コムウェア オプテージ カワイ電線 クレスコ サムコ 日新電機 防衛省情報本部 【進学】 奈良先端科学大学院大学 兵庫県立大学大学院	【就職】 GS ユアサ パナソニック アプライアンス社 パナソニック コネクティッドソリューションズ社 タマディック 小松製作所 安川電機 パナソニック ハウジングシステム事業部 【進学】 神戸大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 兵庫県立大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学	【就職】 川田工業 太陽工業 UR リンケージ 京都府 【進学】 滋賀県立大学大学院

5. その他

5.1 第3ブロック専攻科長会議

令和3年度は明石高専を担当校として、7月21日(水)にWeb会議で開催された。協議事項では、「専攻科各種申請状況(改組, レビュー, JABEE など)について」、「コロナ禍での国際交流の実施方法について」について議論され、情報共有がなされた。また、承合事項では、「入学者数(認証評価での指摘0.7-1.3倍について)」、「コロナ禍での活動状況」、「遠隔授業(実習系科目や試験)」、「JABEE 関係」、「特例認定関係」等について各校の状況が説明された。

5.2 近畿地区高専専攻科長会議

令和3年度は本校が主幹校であり、12月7日(火)にキャンパスプラザ京都において対面で開催された。協議事項としては「専攻科担当教員の研究活動」について議論された。承合事項では、「専攻科学力入試の選考基準」、「入学試験の実施方法」、「国立高専教育国際基準」等について各校の状況が説明され、情報共有がなされた。

人 文 科 学 部 門

人文科学部門長 田村 修一

1. 授業公開

本年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大の状況を鑑みて、実施されなかった。

2. 英語デー

10月19日（火）、英語教員が実施運営主体となり、クラス担任等の協力を仰ぎ、教務委員会主催の学校行事としてTOEICおよびTOEIC Bridgeの団体受検を実施した。日頃の学習の成果および英語のリーディング・リスニング能力を評価する目的で、本科1・2年生はTOEIC Bridgeを、本科3年生から専攻科2年生まではTOEICを受検した。本年度は、本科3・4年生と専攻科1年生が全員受検（受検料無料）で、本科1・2・5年生と専攻科2年生は任意受検で、受検者が受検料の一部を負担した。

3. 英語プレゼンテーションコンテスト

第15回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（大阪府立大学工業高等専門学校主催）が11月20日（土）に開催され、本校から2名がシングル部門に参加した。昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染防止のため、Zoomを利用した遠隔開催となった。

プレゼンテーションは事前に撮影したビデオをストリーミング配信し、それを各高専会場で出場者が視聴するという形で行われ、視聴後は審査員によるリアルタイムの質疑応答があった。本校からは以下の2名が出場した。

3年 電気情報工学科	片山 恵進	タイトル：Rainbow of Diversity
3年 建設システム工学科	貫井 かな	タイトル：Three Presentation Tricks

片山さんは日本におけるLGBTQの問題について、そして貫井さんは上手なプレゼンテーションを行うための三つの技法についてそれぞれ発表した。2名とも練習の成果を存分に発揮し、発表後の質疑応答でも生き生きと英語で受け答えしていた。今後につながる貴重な経験になったのではないかなと思われる。

4. 教員の受賞

平尾恵美教員の研究発表「従属節発話における文脈と慣習性—「単純な」／「慣習化された」主節省略の分析から—」（日本語用論学会第24回大会 2021年12月18日 オンライン開催）が、日本語用論学会第24回大会 大会発表賞を受賞した。

5. 外部資金導入

本年度は、人文科学部門教員で、以下の者が科研費等の外部資金を獲得している。

○児玉圭司教員

- ・（研究分担者）基盤研究(B)「近代日本の地域自治—村と大字の法史学的研究—」（代表：川口由彦 法政大学教授）
- ・（研究代表者）基盤研究(C)「官吏・典獄と被収容者から読み解く、明治日本の監獄」
- ・（研究代表者）山岡記念文化財団研究助成金「近現代日本における刑罰・刑務作業の考察」

○牧野雅司教員

- ・（研究代表者）若手研究「外交文書の「見た目」から読み解く近世日朝関係の特質」

○荻田みどり教員

- ・（研究代表者）研究活動スタート支援「源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究」

○山根秀介教員

- ・（研究代表者）若手研究「ウィリアム・ジェイムズの多元論哲学に対するシャルル・ルヌヴィエの影響に関する研究」

6. 国税庁「令和3年度 第60回 税に関する高校生の作文」部門の受賞

3年生「総合国語ⅡA, ⅡB」(田村修一教員・荻田みどり教員担当)の授業において「税に関する高校生の作文」に応募し、以下の本校学生2名が受賞した。12月16日、舞鶴税務署長による授賞式が本校校長室にて執り行われた。

京都府租税教育推進協議会会長賞

「国民の義務」 柴田 歩夢(電子制御工学科3年)

舞鶴地区租税教育推進協議会会長賞

「税と建築」 磯田 倫花(建設システム工学科3年)

7. 「放課後教室」の実施

本年度も、自然・人文科学部門合同で「放課後教室」を開催した。これは、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的としたもので、定期試験の2週間前から週に3回程度、放課後(16:30~18:00)に低学年の教室を利用して行った。本年度はじめての試みとして、専攻科2年生がTAとして後期中間試験に向けての放課後教室に参加し、低学年の学生に学習の指導を行った。また、遠隔授業期間で学生が登校できない時期に、インターネットを介したビデオチャットツールを使用してオンラインで放課後教室を行った。なお、放課後教室は今年度を通じて17回開かれ、延べ422名の学生が参加した。

8. 「総合演習」の実施

自然・人文科学部門合同で「総合演習」を実施した。1年生と2年生全員が週に1クラス、習熟度の向上を目的に課題に取り組んだ。

9. 教員の動き

本年度4月にJimmy Aames先生(英語)を、同11月に岡下朋世先生(英語)を、それぞれ助教としてお迎えした。

自然科学部門

自然科学部門長 奥村 昌司

1. 教育の取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応

昨年度と同様に感染症が広まる恐れがあるときには遠隔授業を行うなどの対応が必要であった。

(2) 中学数学の復習と数学基礎力診断テスト（1年生対象）

4月入学の新入生に対する取り組みとして、入学前の数学の事前課題（宿題）を今年も配布して、新入生に対して中学数学の復習を促している。今年度は「総合演習」の時間に実施した。新年度についても「総合演習」の授業時間内に確認テストを実施する予定である。

(3) 入学前ICT教育（入学予定者対象）

翌年度新入生を対象とした入学に向けての学習準備のための取り組みとして、入学前ICT授業を今年度から実施しており、自然科学部門は第2回(1月26日～2月1日)の授業を担当した。自然科学部門担当の授業では、人文科学系科目を含む一般科目の紹介および理科をテーマとしたクイズ形式のオンライン授業を、Teamsを用いて実施した。

(4) CBT（1年生・2年生・3年生対象）

CBT「数学」・「物理」・「化学」を、教務係および情報科学センターの協力を得てクラス毎に実施した。「数学」については1年から3年の全クラス（12月6日～23日）、「物理」については2年の全クラス（12月24日）、「化学」については1年の全クラス（12月10日）を対象として実施した。トライアルを含めて5年目になり、スムーズに実施することができた。

(5) 総合演習（1・2年生対象）

人文科学部門と共同で担当している1・2年生の総合演習の時間に、数学、物理、化学などの日々の学習をおぎなう課題学習に取り組ませた。

(6) 放課後教室（主に低学年の希望者対象）

人文科学部門と合同で、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的として、「放課後教室」を今年度も実施した。

前期は、定期試験（前期期末、後期中間）の約3週間前から週に2回程度、後期は、中間試験の約2週間前から週に3回程度、放課後に人文・自然科学部門の教員が数名待機する教室に学生を集めて予復習や試験勉強の学習支援を行った。また、後期中間試験前の放課後教室では、専攻科生を2名配置し、質問のしやすい環境づくりを行った。成績不振者には担任から個別に参加を促し、基礎学力の向上を図った。遠隔授業の実施により、後期期末試験前の放課後教室は開催できなかった。

今年度の放課後教室は年間14回開かれ、延べ人数で422名の学生の参加があった。後期期末試験前の放課後教室を実施できなかったにも関わらず、前年度から77名増えており、学生の間に放課後教室が普及してきていると感じる。

(7) 進学希望の学生に対する学習支援

大学への編入学や専攻科進学を希望する学生に対する学習支援として、過去の大学編入試験や専攻科入学試験の問題について学生が解答した答案のチェックを行い、解答と解説を行った。

年度末には、進学希望の4年生を対象とした勉強合宿（3月14日～18日）が開かれ、自然科学部門の数学・理科教員各1名が講義（線形代数と電磁気学）を1週間にわたって実施した。

(8) 昨年度に引き続き、物理実験室・準備室および化学実験室・準備室の整備を行い、理科系科目における実験の充実を図っている。また、放課後に理科好きの学生たちを実験室に集め、理科教員の指導の下、理科に係わる活動を体験させている。

2. 学校広報

今年度、オープンキャンパスにおいて、会場へ来られた生徒や保護者の方に低学年の授業の様子を伝えるため、人文科学部門とともにパネル展示を行った。また、自然科学部門が提供している授業の紹介や使用教科書、板書などの紹介を行った。

年度末には、新中学2・3年生を対象に、自然科学部門の理科教員2名による先どりサイエンス教室「光でみる実験」(3月26日)、「光をみる実験」(3月27日)が開催され、延べ人数にして24名の参加者があった。

3. 公開講座・出前授業

科学の楽しさを伝えるため、数学・理科が好きな小中学生を対象に、今年度は7件の公開講座「不思議なパズルとフィボナッチ数列」「太陽を観察しよう」「計算機と平方根」「折り紙と数学」「カレンダーと数学」「あやべ理工系ことはじめ教室 作って遊ぼう!〜ストロー多面体〜」「数式展覧会」と1件の出前授業「不思議なパズルとフィボナッチ数列(於木津川市立泉川中学校)」を実施した。また、舞鶴高専において実施された「舞鶴市立若浦中学校の体験学習」において、体験講座「偶数と奇数の話」を担当した。

4. ジュニアドクター育成塾の取り組み

本校が平成31年度(令和元年度)に採択されて実施している、科学技術振興機構の行うジュニアドクター育成塾の事業の取り組みにおいて、自然科学部門では、今年度に第2段階育成プログラムに進んだ受講生を、数学のテーマ「再帰性と数学」、理科のテーマ「宇宙について調べよう」でそれぞれ2名ずつ受け入れ、課題研究の指導を行った。

5. 人事

- 令和3年3月31日、背戸柳実教授が定年退職された。昭和61年から36年間の長きにわたり務められ、その功績により名誉教授の称号を授与された。令和3年度、背戸柳先生は嘱託教授として勤務された。
- 令和3年4月1日、宝利剛教員が准教授に昇進された。

機 械 工 学 科

機械工学科長 西山 等

1. 年間活動の概要

機械工学科の年間活動の概要を下表に示す。

年 月	活 動 内 容
令和3年4月	・ 新入生学科ガイダンス (4/9)
6月	・ 先どりプログラミング教室[学科見学] (6/12) ・ あやべ理工系ことはじめ教室 [公開講座「クレーンを作って遊ぼう」] (6/26)
7月	・ 学校説明会「学科説明」 (7/3・4) ・ 舞鶴市立若浦中学校3年生体験学習「クレーンを作って遊ぼう」 (7/8) ・ 福知山市立成和中学校2年生体験学習「施設見学」 (7/15)
8月	・ オープンキャンパス [学科展示・体験学習] (8/7～8/9)
10月	・ 公開講座「3D-CAD を使ってみよう！ パソコンで 3D モデル組立て」 (10/16) ・ 卒業研究中間発表会 (10/21) ・ 出前授業「定規より便利な工具（ノギス）を作ろう」 (舞鶴市立和田中学校, 10/26)
11月	・ 公開講座「クレーンを作って遊ぼう」 (11/13・14)
令和4年1月	・ 授業公開（コロナ禍により中止） (1/17) ・ 機械工学科特別講演会(3年生対象)「エンジニアの業務紹介とっておきたいスキル」 （講師：日本電産マシソール(株)所属 本校卒業生）（コロナ禍により中止） (1/17) ・ 卒業研究発表会（リモート・オンデマンド） (1/27)
3月	・ 舞鶴市立若浦中学校1年生校外学習[学科見学] (3/10)



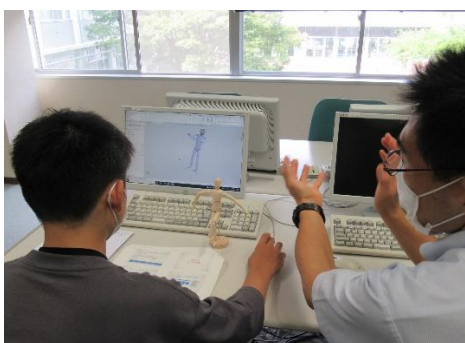
学校説明会「学科説明」



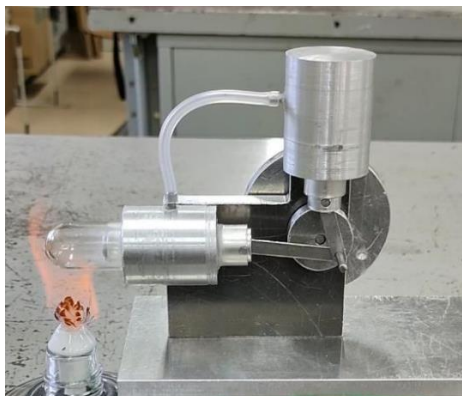
若浦中学校「体験学習」



成和中学校「施設見学」



公開講座「3D-CAD を使ってみよう！」



オープンキャンパス「体験学習」
(スターリングエンジン)



オープンキャンパス「体験学習」
(ハンドスピナー)

2. 地域企業との連携による製品企画の流れの体験

機械工学科では4年生の設計製図Ⅲにおいて、地域企業の協力を得て実務に沿った製品の企画・開発・設計などの流れを体験できる授業を行っている。授業では、機械工学科教員と企業での装置の設計や開発の実務を担当する技術者が連携して授業を展開する。今年度は2件の連携授業を行った。

連携先の株式会社椿本チエインとは令和3年4月19日～11月15日、オムロン株式会社綾部事業所とは令和3年10月14日～12月23日の期間において新製品開発等の課題に取り組んだ。学生にとって学校教員の授業だけでは経験できない実り多い授業となった。



地域企業との連携授業



地域企業との連携授業

3. 進路状況

令和3年度5年生の進路状況を下表に示す。

就職 (18名)	進学 (11名)
ENEOS, オムロン, カシフジ, 川崎重工業, キヤノンマシナリー, 極東開発工業, クボタ, サントリー, ジェイエムエンジニアリング, JMU ディフェンスシステムズ, TOWA, ナカサク, 任天堂, 日立建機, 日立造船, 二九精密機械工業, メンバーズ, シキボウ	舞鶴高専専攻科, 奈良高専専攻科, 近畿大学高専専攻科, 岐阜大学, 九州大学, 長岡技術科学大学, 岡山大学, 立命館大学

4. 人事異動

令和4年3月31日付で山本昌平助教が退職された。

電 気 情 報 工 学 科

電気情報工学科長 内海 淳志

1. 年間活動の概要

電気情報工学科の年間活動の概要を下表に示します。

年 月	内 容
令和3年 4月 7日	・新入生ガイダンス
令和3年 4月27日	・4年生創造工学コンセプト発表会
令和3年 6月12日 26日	・先どりプログラミング教室「小さなコンピュータを利用したプログラミング」(本校) ・あやべ理工系ことはじめ教室 「プログラム+電気回路=オリジナルイルミネーション (綾部市ものづくり交流館)」
令和3年 7月 8日 15日 20日	・体験学習「画像処理プログラミング入門」(本校, 対象: 若浦中) ・体験学習「画像処理プログラミング入門」(本校, 対象: 成和中) ・4年生創造工学成果発表会
令和3年 8月 7日 ～9日	・オープンキャンパス体験学習 「空間に絵や文字を表示する回路を作ろう!」, 「AI で楽器アプリを作ってみよう!」
令和3年10月 4日 14日 26日 26日	・4年生工学基礎研究の研究室配属決定 ・5年生卒業研究中間発表会 ・体験学習「エジソン電球の実験」(和田中) ・電気情報工学科特別講演会(電気三学会関西支部主催, 対象: 4年生・5年生) 「スーパーコンピュータ『富岳』の“ひみつ” ～スパコンでなにができるか～」 理化学研究所 計算科学研究センター 副センター長 佐藤 三久先生
令和3年11月 5日 7日	・専門アクティブラーニング(AL)連続講義(対象: 3年生, 第2回11月26日) 「PLC特別講義」株式会社太平電機 藤田 智常 様 ・舞鶴高専杯プログラミングコンテスト(赤れんが3号棟のコワーケーションスペース)
令和3年12月 3日 4日	・専門アクティブラーニング(AL)講演会(対象: 1年生・2年生・3年生) 「電気回路を学ぼう」岐阜高専 所哲夫教授 ・学科主催公開講座「ピカピカ光る! クリスマスオブジェ作り」(本校)
令和4年 1月 6日 13日 18日 27日	・電気情報工学科教育研究会 「タイ高専, 気候本部への派遣報告」(竹澤先生), 「情報技術による医療診断支援」(森先生) ・授業公開「IES 画像工学」(科目担当: 芦澤先生) ・4年生工学基礎研究発表会(オンデマンド発表, オンライン質疑) ・5年生卒業研究発表会(オンデマンド発表, オンライン質疑)
令和4年 2月 9日 17日	・入学前ICT教育 「未来につながる電気エネルギー」(オンデマンド授業, 対象: 入学予定者) ・専門アクティブラーニング(AL)講演会(対象: 1年生・2年生・3年生) 「世界はプラットフォームでできている」株式会社LOM 代表取締役 高橋 賢 様 「IT企業ってなんだろう」インフォニック株式会社 堀 優樹 様
令和4年 3月10日	・体験学習「スクラッチでゲーム作成」(本校, 対象: 若浦中)

2. 電気情報工学科特別講演会



特別講演

令和3年10月26日(火)に本学科の特別講演会として、電気三学会関西支部主催の「学生のための講演会」を本校視聴覚教室にて開催しました。理化学研究所計算科学研究センター副センター長 佐藤三久先生に講師をお願いして、「スーパーコンピュータ『富岳』の“ひみつ” ～スパコンでなにができるか～」と題してご講演頂きました。スーパーコンピュータ『富岳』の紹介から始まり、地球変動、飛沫感染など、スーパーコンピュータを利用した計算シミュレーションの例を示しながら、わかりやすく説明をしていただきました。学生達は、スーパーコンピュータの世界的な開発競争や実際に活用された例を知ることができ、非常に興味深く聞いていました。

3. 舞鶴高専杯プログラミングコンテストの開催



アイディア部門のプレゼンテーション

小中学校のプログラミング教育必修化によって多くの関心が集まっているプログラミングの普及のために、小中学生の発想力、表現力、技術力および、発信力の向上を目指し、令和3年11月7日(日)に、舞鶴高専杯プログラミングコンテスト(アイディア部門、ゲーム部門)を開催しました。コンテスト当日は、アイディア部門はプレゼンテーション、ゲーム部門はプレゼンテーションとデモンストレーションの審査を行いました。赤れんがパークにあるコワーキングスペース Coworkation Village MAIZURU を会場として実施しましたが、小・中学生の能力を活かしたアイディアやゲームを見聞きし、参加者と来場者の熱い拍手で包まれていたのがとても印象的でした。

4. 学生による学会発表など

電気情報工学科学生の学会発表を下表に示します。*印は本学科出身の専攻科生です。

年 月	発 表 学 会	発 表 者
令和3年 8月	第29回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 岡山 「スマートフォンによる歩行者用信号機検出の基礎研究」	中島 滉太
令和3年 9月	第82回応用物理学会春季学術講演会 「液体金属、金、アルミニウムを各ショットキー電極とするダイオードの電気的特性の比較」	内田 竣也* 熊谷 昌城
令和3年 12月	第6回日本福祉工学会九州支部大会 熊本2021 「スマートフォンを活用した視覚障害者向け障害物検出システムの開発」	森田 光明*
令和4年 2月	第3ブロック専攻科研究フォーラム 「SiCモジュールを用いた高周波電流測定手法の検討」	小林 大輝*
	「室内環境を把握するためのIoTシステムの開発」	松井 祐樹*
令和4年 3月	令和3年度高専研究発表会 「Residual Networkによる妊娠予測」	足立 雄信
	「視覚障害者の横断歩道通過支援のための信号機検出」	中島 滉太
	第69回応用物理学会春季学術講演会 「液体金属を用いたショットキーバリアダイオードの改良」	内田 竣也* 熊谷 昌城
	令和4年電気学会全国大会 「誤点弧解析のための電圧振動モデルの提案」	東出 稜平*

5. 5年生の進路状況

今年度の5年生は、就職希望者が27名(60%)、進学希望者が18名(40%)でした。

【就職(内定企業)】: アイテック阪急阪神, アークレイ, イシダ, NTTフィールドテクノ, 大阪ガス, 大阪中央ダイカスト, 大阪メトロ, きんでん, コベルコソフトサービス, キヤノンメディカル, システムエグゼ, GSユアサ, 住友電工, 住友電設, ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ, トヨタ, 日産オートモーティブテクノロジー, 日新電機(2名), ネクストウェア, パナソニック アプライアンス社, 富士電機, ホソカワミクロン, 三菱電機通信機製作所, 村田機械, 村田製作所八日市事業所, メンバーズ

【進学(合格先)】: 大阪大学, 岡山大学, 近畿大学, 京都工芸繊維大学, 佐賀大学, 豊橋技術科学大学, 長岡技術科学大学(3名), 新潟大学, 広島大学, 福知山公立大学, 舞鶴高専専攻科(4名), 三重大学, HAL大阪校

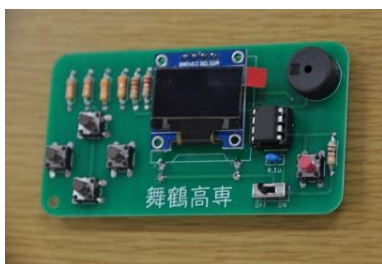
電 子 制 御 工 学 科

電子制御工学科長 野間 正泰

1. 年間活動の概要

令和3年度電子制御工学科の年間活動の概要を下の表に示す。

月 日	活 動 内 容	備 考
令和3年 4月7日	新入生・専門学科ガイダンス	全教員，技術職員
6月12日	先どりプログラミング教室	川田，高木
8月7～9日	オープンキャンパス	全教員，技術職員
7月3～4日 10月30～31日	第14回全日本小中学生ロボット選手権（舞鶴高専大会）（対象：小学生，中学生）	藤司，石川，高木，若林
10月21日	卒業研究中間発表会	2会場で実施，31名発表
11月	学科特別講演会	中止
11月	4年生海外研修旅行	中止
12月20日	インターンシップ報告会	5名発表
令和4年1月17日	授業公開（若林）	（主査・石川）中止
1月28日	卒業研究発表会（オンデマンド）	動画で発表
2月	創造設計プロジェクト競技会	中止



オープンキャンパス

2. 教員人事

令和3年9月30日付で藤司純一助教が民間企業に転出された。

3. 卒業研究

年明けの3週間が遠隔授業になったことを受け、卒業研究発表会は発表動画を提出させ、各教員が動画を視聴し、その内容を評価することに変更した。また、質問事項はEXCELファイルに記入して、それを学生が確認し、回答させることにした。

なお、卒業論文と要旨はpdfファイルで提出させ、提出状況は5S担任と学科長が確認した。印刷は後日で可とした。

4. 進路状況（5年生）

最近5年間の進路状況を下の表に示す。本年度は5S担任の石川一平准教授が進路指導を担当し、就職希望者19名と進学希望者12名の進路が確定した。

年 度	卒業予定者数	就 職	進 学 (専攻科・大学編入学)	その他 (自営業・専門学校)
令和3年度	31	19	12	0
令和2年度	34	21	13	0
令和元年度	28	14	14	0
平成30年度	37	22	15	0
平成29年度	27	17	10	0

建設システム工学科

建設システム工学科長 尾上 亮介

1. 年間活動の概要

建設システム工学科の活動概要を下表に示す。

年 月	活 動 内 容
令和3年 4月	・新入生対象専門学科ガイダンス (4/9)
令和3年 8月	・オープンキャンパス (8/7, 8, 9)
令和3年 10月	・公開講座「住宅建築模型制作（白の家）」 (10/9) ・公開講座「水をきれいにする試み」 (10/10) ・卒業研究/卒業設計 中間発表会 (10/14) ・4C 現場見学「舞鶴市港湾」 (10/15) ・公開講座「住宅建築模型制作（住吉の長屋）」 (10/17) ・公開講座「住宅建築模型制作（前川國男自邸）」 (10/23) ・建設技術展 2020 近畿 学校ブース出展 (10/27, 28)
令和3年 11月	・公開講座「水をきれいにする試み」 (11/6) ・公開講座「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体を作ろう！」 (11/3) ・公開講座「住宅建築模型制作（白の家）」 (11/13)
令和3年 12月	・4C 見学会「高野川橋梁」 (12/15) ・公開講座「椅子の制作」 (12/18)
令和4年 1月	・卒業研究/卒業設計 発表会 WEB (1/27)
令和4年 2月	・まいづる土木・建築フォーラム WEB (2/15) ・出前授業「住まいの設計」WEB (和田中学校 (2/22))

2. 教育活動

(1) 4年生インターンシップ

本年度のインターンシップは実施直前に出された関西エリアの新型コロナウイルス感染予防の緊急事態宣言により実施は少ない。8名の学生がインターンシップに参加した。インターンシップの経験を教員や他の学生に報告会で発表した。



(2) 現場見学会

新型コロナウイルス対策を実施した上で、舞鶴市の舞鶴西港、高野川橋梁架設現場の現場見学を実施した。舞鶴西港の見学では、業務艇に乗船し、舞鶴湾の特徴および港湾施設を視察、工事現場&旅客ターミナル見学、大野辺緑地周辺散策を行った。

高野川橋梁架設現場の見学では、鋼床版箱桁橋の送り出し架設の現場見学を行った。（京都府発注、施工：川田工業株式会社）



写真1 舞鶴西港見学会

見学した現場は、橋梁本体の先に軽いトラス構造を取り付けて送り出す架設工法であり、河川内に仮設構造を設置しなくても架設できる工法が採用されていた。先端に取り付けるトラス構造は、まさにこの時期に構造力学で学んでいた構造なので興味深く見学することが出来た。現場事務所では香川高専出身の技術者の方から説明を受けた。

参加学生は、進路や業務内容などについて考える機会となった。（写真 1、2）

（3）第 11 回まいづる土木・建築フォーラム

令和 4 年 2 月 15 日（火）に当学科主催のフォーラムを開催した。毎年、舞鶴市市政記念館で開催しているが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、ネット配信で開催した。このフォーラムでは、5 年生が卒業研究で取り組んだ地域に関連したテーマを中心に、9 件の口頭発表を行った。



写真 2 高野川橋梁架設現場見学会

3. 学科活動

（1）公開講座，出前授業

公開講座は、住宅建築をテーマとした「住宅建築模型制作」シリーズ、「椅子の制作」を実施した。都市環境系のテーマとして、「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体を作ろう！」「水をきれいにする試み」などを実施した。出前授業では、11 月、2 月に「住まいの設計」を舞鶴市内の中学校 2 校で実施した。内 1 校では、初の試みとして、WEB の遠隔授業により出前授業を行った。

4. 進路状況

令和 3 年度卒業生の進路は下表のとおりである。近年は企業や官公庁の採用意欲が旺盛で就職は好調である。都市環境コースは、就職希望者の増加と共に進学者が減少した。一方、建築コースは進学する学生が多い傾向がある。

表 令和 3 年度進路状況

コース	就職			進学・編入学			合計
	民間企業	官公庁	小計	専攻科	大学学部	小計	
都市環境	11	5	16	0	3	3	19
建築	8	0	8	6	5	11	19
合計	19	5	24	6	8	14	38

図 書 館

学術情報センター長 伊藤 稔

1. ブックハンティング

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響でブックハンティングを中止せざるを得なかった。その代替として、今年度も10月に、藤田委員の主導により各クラスの図書委員を通じ購入希望図書の募集を行なった。学生の視点で選んだバラエティに富んだ100冊以上の図書を購入することができた。2年連続してブックハンティングが行えなかったのは残念であるが、このような企画を通じ、学生の図書館の活用がよりいっそう促進されることを期待する。

2. 舞鶴高専図書館だより第99号の発行

今年度は3月に、藤田委員の主導により発行した。第99号では、学生による図書紹介とインタビュー企画「大学へ編入学する5年生へのインタビュー」が掲載された。学生による図書紹介では、19冊の図書についての紹介文が掲載された。インタビュー企画では、大学の編入学試験で実際に利用した参考書や問題集などの紹介もあり、大学への編入学を考えている学生にも大いに参考になる内容となった。このような企画を通じ、「図書館だより」を手にした学生や教職員にとって、図書館への興味や関心を喚起されることを期待する。



2022年3月8日発行 舞鶴工業高等専門学校学術情報センター運営委員会



学生による図書紹介



特集 インタビュー企画

3. 令和3年度紀要第57号の発刊

今年度は、篠原委員の主導で発刊した。10月に原稿の募集を開始し、3件の投稿があった。紀要編集委員会で投稿された原稿全てを掲載と決定し、令和4年3月に発刊された。

4. 長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システム（E-Cats）

長岡技術科学大学附属図書館が、全国立高専55キャンパスと連携し、当該システムを管理・運用している。このシステムの最大の特徴（利点）は、同大学にサーバ管理業務を集約し、システム管理やメンテナンス等を同大学が一元的に行っている点である。なお、現行システムは第3期に当たり、平成29年3月に開始された。

5. 研究支援サービス

図書館ホームページ中の「研究支援サービス」のページより、以下の電子ジャーナル及び学術情報データベースなどを提供している。

- 長岡技術科学大学によるコンソーシアムを介して提供しているサービス
 - ScienceDirect
 - AIP (American Institute of Physics)
- 機構本部によるコンソーシアムを介して提供しているサービス
 - Science, MathSciNet, CiNii
- ヨミダス文書館
 - 読売新聞がネットで読めるオンライン・データベース
- 国立情報学研究所(NII)が行っているサービス
 - NACSIS-ILL (図書館間で行われている相互貸借サービス (文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付) のメッセージのやりとりを電子化したシステム)
 - ILL文献複写等料金相殺サービス (NACSIS-ILLの料金情報を元にして参加機関同士の利用料金を相殺するシステム)
 - Webcat Plus (NII図書情報ナビゲータ)
 - KAKEN (科学研究費助成事業データベース)
 - JAIRO (学術機関リポジトリポータル)
- その他の機関が行っているサービス
 - NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索, 複写・貸借申込みシステム)

6. その他

- 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

今年度も、マスク着用や手指のアルコール消毒, 出入り口や窓の常時開放による換気, 閲覧室の座席配置や座席数の削減による飛沫感染予防, 貸し出しカウンターのビニールシート設置などの新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を継続し行なった。
- 踊り場扉の設置

令和4年3月に、図書館2階から3階へ上がる踊り場に扉が設置された。

情報科学センター

学術情報センター長 伊藤 稔

情報科学センターには、「教育・研究部門」と「機器運用部門」の2つの部門がある。教育・研究部門では、学術交流に関する講演会、全学生対象のネットワーク講習会などを行っている。機器運用部門は、校内の教育、研究および業務において使用するサーバやネットワーク機器類の維持管理と教育用電子計算機システムの運用を行っている。

1. 教育・研究部門

■ 学術情報センター講演会

情報科学センターでは産官学の技術交流の一環として、学内外の技術者や研究者が情報交換を行う場とし、年に1回の講演会の企画・開催を行なってきた。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止せざるを得なかったが、今年度は毛利委員の主導により参加者を教職員と学生に限定し、会場を視聴覚教室に変更することで開催することができた。

第45回学術情報センター講演会（令和3年11月19日（金）13:30～15:30）

- ・ 自然科学部門 熊谷 大雅 助教「偏微分方程式と粘性解」
- ・ 電気情報工学科 森 健太郎 助教「情報科学による不妊症診断支援」



■ ネットワーク講習会

情報科学センターでは、毎年、全学生を対象にネットワーク利用講習会を行なっている。今年度は、1年生については対面での講習会とeラーニングコンテンツの併用、2年生以上についてはeラーニングコンテンツを利用した講習会を実施した。ほとんどの学生が真面目に取り組んでくれた。明らかになった問題点など、次年度以降の講習会に反映し、よりよい講習会に改善していきたいと考えている。

2. 機器運用部門

■ 遠隔授業への対応

昨年度から引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業が全学的に実施された。全教職員が遠隔授業の実施や授業コンテンツの作成、学校運営に様々な工夫を凝らして取り組む中、センターとしては新入生や非常勤講師へのアカウント配布方法の工夫、各種サービスに関する問い合わせやトラブルへの対応を行なった。また、令和2年度補正予算で購入したSurface Pro 7については、学生や教室利用での貸し出し、保守・管理を学生課教務係と連携して行い、有効活用することができた。

■ 教育用電子計算機システムの管理・運営

現在稼働中の教育用電子計算機システムは、平成29年3月に更新され5年が経過した。ハードウェア障害としては、PC端末の故障はなかったものの、ディスプレイ1枚の故障、バックアップサーバのディスク故障に伴うディスク交換が2件、中間モニタへの画像転送装置のアダプタ故

障が1件、発生した。いずれも交換等により復旧している。ソフトウェアの障害はなかったが、バックアップに異常にかかっており、調査中である。

本システムは当初のリース期間の5年が経過した。本稿執筆時点において、昨年度より計画していたとおり2年間のリース延長契約の手続きを進めている。次年度は、次期教育用電子計算機システムの仕様策定の準備を始める計画である。

■ 校内LAN基幹システムの運営

校内基幹LANシステムが更新されて3年が経過した。これまで大きなトラブルもなく安定して稼働している。ハードウェア障害として、メインストレージのディスク故障に伴うディスク交換が1件発生した（復旧済み）。

■ 高専統一ネットワークシステム

平成29年8月から運用しているこのシステムは、国立高専機構のスケールメリットを生かし一括調達されたネットワークシステムであり、ファイアウォールやスイッチ、無線アクセスポイントを含むネットワーク機器と配線、そしてDNSやDHCP、認証などを担うサーバ群が含まれる。特に無線LANについては、本校でアクセスポイントを追加調達して利用範囲を広げたこともあり、有効に活用されている。

調達から5年目を迎え、令和4年から5年にかけて更新が予定されている。ヒアリング対応等、目下準備中である。

■ SINET6への移行

現行のSINET5へのアクセス回線も契約が終了となることから、共同調達が実施され、SINET6への移行に合わせアクセス回線も切り替わることとなった。切り替えは3月末を予定していたが、諸々の事情により5月以降になる見込みである。

■ Moodleサーバの運用

昨年度から、遠隔授業への対応など、各教員がMoodleを活用し授業資料や課題など多くのコンテンツをアップロードしている。このため、Moodleサーバの拡張を昨年度行なった。今年度も、大きな問題もなく運用が行われている。

入学前ICT教育WGを中心に、令和4年度入学予定者対象の入学前ICT授業が実施された。センターでは、MoodleやGmailのアカウント作成と、調整作業を行った。

3. その他

■ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

今年度も、マスク着用や手指のアルコール消毒、出入り口や窓の常時開放による換気などの感染予防対策を行なった。また、コンピュータの使用前に学生が自分で消毒できるように除菌シートを演習室に常備した。

■ 情報科学センター改修

情報科学センターの改修工事が来年度9月以降に行われることが決定した。工事期間中は、情報科学センターの演習室が利用できなくなるため、図書館3階のマルチメディア教室を代替の演習室として利用することとした。授業期間中の改修工事になるが、授業への影響を最小限にできるよう準備を進めていきたい。

■ 令和3年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会

今年度は、以下の内容でオンラインで開催された。

日時：令和3年11月29日（月）13:30～17:00

令和3年12月 1日（水）13:30～16:30

場所：Microsoft Teams, Zoomによるオンライン形式

内容：セキュリティ関連報告、高専統一ネットワーク整備、Azure AD・Intune紹介

教育研究支援センター

教育研究支援センター長 谷川 博哉

教育研究支援センターでは、昨年度に引き続いて、教育研究の支援ならびに地域貢献等に関連して、さまざまな取組みを行った。人事交流で令和3年3月まで勤務していた井谷技術専門職員が明石高専へ戻り、後任に、令和3年4月から蔭山技術職員が新規採用され、現在、常勤11名、再雇用1名体制で職務を遂行している。

以下に、本年度に技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

1. 教育研究支援

本年度も昨年度までと同様に、実験・実習を中心として教育研究支援の役割を果たしてきた。本年度も新型コロナウイルス感染拡大の状況下での授業が開始となった。学生の新型コロナウイルスの感染者の発生を受け、5月13日から19日までは臨時休校、5月20日から21日までは遠隔授業となった。また、国内の新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、夏季休業明けの9月21日から24日まで、および冬季休業明けの1月11日から2月4日までは遠隔授業となった。教育研究支援センターに所属する技術職員は、実験・実習の担当がメインであるため、遠隔授業での実施は難しい。前述の期間を除き、概ね、対面授業の形で実施することができ、また、遠隔授業期間中の内容は対面授業再開後に実施するなど、学習への影響は最小限に抑えることができたと考えている。

遠隔授業以外にも学校全体の新型コロナウイルス感染症対策の取組として、毎朝学生に健康調査の質問(発熱や風邪症状がないか)について回答依頼のメールを送信し、Web上で回答してもらうシステムが年間を通して運用された。その日の全学生の回答結果が集計され、全教職員(特にクラス担任と学生指導の教職員)が未回答者や体調不良を回答した学生を確認できるようになっている。このシステムは、本センターの技術職員が作成したものであり、昨年度に引き続き、運用・保守を行った。

また、本年度は、学寮の風呂当番や閉寮作業等の支援も行い、新型コロナウイルス感染症対策の一端を担っている。他に、入試広報活動に関係する学校説明会等の実施支援や本年度は例年よりも降雪の日が多く、除雪作業も多く時間を費やし、支援を行った。

2. 学生の出欠管理システムについて

昨年度に引き続き、本科1～5年生については、電子版出席簿を用いた出欠管理システムが運用されている。Web上に置かれた学年ごとの出席簿ファイルに、それぞれの科目担当者が授業ごとに学生の出欠を入力する。このファイルを見れば、クラス担任や教務関係の教職員は、学生の全科目についての出欠状況を把握できるようになっている。また、この出席簿ファイルに入力された情報に基づいて、始業時のショートホームルームを欠席した学生、および午前中の授業で出席が確認できていない学生に対して欠席確認のメールが自動送信される仕組みになっている。安否確認の意味もあり、クラス担任と保護者にも送信される仕組みになっている。保護者のアドレスについては登録用フォームが設けられており、保護者が自らアドレス登録を申請できるようになっている。この出欠管理システムは、本センターの技術職員が作成したものであり、出席簿ファイルの作成や保護者の登録アドレスの管理などを含めて運用・保守を行った。

3. 公開講座

本年度は小中学生向けに3回の公開講座を行った。6月26日(土)に参加者9名に対して「オリジナルのペン立て付きブックスタンドを作ろう」を開催した。教材のブックスタンドは、講座後も長く使用してもらえるようシンプルなデザインを心がけ、利便性を踏まえサイドにはペン立ても設けた。材料には、年輪が不明瞭で柔らかく加工しやすいシナ材を使用し、すっきりと見えるよう9mmの厚みのものを使用した。また希望者には、予め側面の板の一つに文字や模様を炭酸ガスレーザ加工機で描いておいた。

講座では最初に、ブックスタンドの部品を作る時に用いたレーザ加工について説明を行った。次に組立て作業を行った。慣れない金づちの作業のためか、釘が若干はみ出るような場面も見られたが、全員が大きな失敗もなくきれいに仕上げる事ができた。最後に、当日のサプライズとして、カメとイルカの木型模型の組立てを行った。可愛いらしいとの声もあり、好評だったように思う。

また、11月13日（土）に、昨年度開催した「第1弾【実験】水溶液の性質」に続く形で、中学理科復習シリーズの第2弾として「電気分解とイオン」に関する公開講座を行った。同日に2回実施し、参加者は午前の部9名、午後の部8名であった。化学実験教材を用いて、最初に「電解質とボルタ電池」というテーマで、精製水、重曹の水溶液、およびミョウバンの水溶液にBTB液を加えて色の変化からpHを観察した。次に、LEDをつないだマグネシウム板と銅板を3つの液体に漬けて、LEDの光り具合を観察した後、デジタルテスターで電圧を測定して比較した。更に、マグネシウム板を鉄板に換えてLEDの光り具合を観察し電圧測定を行って、金属を換えた事での変化を比較した。

2つめのテーマとして「電気分解と燃料電池」を行った。硫酸ナトリウム水溶液にBTB液を加え、炭素棒が刺さった試験管に液を満たしてコップの中に入れ、9V電池を繋いで2つの試験管内で液の色がどう変化するか、気体の発生具合がどう違うか観察した。電池を外してLEDを繋ぐと、先に行った実験よりもLEDが明るく点灯し声が上がった。電圧も測定して先程の実験との違いを比較した。



ブックスタンド組立て



燃料電池によるLED点灯

4. 出前授業

令和3年度8月18日～19日、19日～20日の2回、舞鶴市にある社会福祉法人舞鶴学園において出前授業を行った。出前授業には計21名が参加し、建設の分野でも使用されるセメント、エポキシ樹脂を使い、コースターや置物などの小物の作成を行った。

初めに、セメントやエポキシ樹脂などの材料がどのようなところで、どのように使用されているかなどの説明を行い、その後小物の作成を行った。材料には着色を行えるように白色セメントを使用し、エポキシ樹脂は主剤と硬化剤を混ぜ合わせる2液性のものを用いた。また、型枠は脱型のしやすさや、繰り返し使えるという利便性からシリコン製のものを使用した。

セメントの小物作成では水の計量、着色、練り混ぜを行ってもらった。練り混ぜたセメントを型枠に流し込んだあと静置し、翌日に脱型した後、サンドペーパーを用いて研磨を行った。

次にエポキシ樹脂の小物作成を行い、計量、着色を行った後、中にラメや貝殻、ビーズなどを入れるなどの飾りつけを行った。翌日に脱型を行い研磨剤で磨いて完成とした。

どの生徒も初めは慣れない手つきだったが、作業を進める中で徐々に上達していった。どの作品も個性が際立つ物となり、作品を型枠から外す際には驚きと喜びの声を聴くことができた。



セメントでの小物作成



エポキシ樹脂での小物

地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター長 玉田 和也

地域共同テクノセンターは地域貢献活動の推進、および地域の企業や官公庁との連携の強化を目的として、種々の活動を実施しています。令和3年度の主な活動内容を以下に報告します。

1. 舞鶴高専地域テクノアカデミア

舞鶴高専地域テクノアカデミアは、本校と地域産業界の連携強化のために設立された企業団体で、地域共同テクノセンターはその活動推進を担当しています。

総会は、昨年度に引き続きオンラインで開催し、会員企業や地元自治体関係者及び本校関係者ら23名が参加し、昨年度の事業報告や今年度の事業について話し合われたほか、舞鶴高専の活動報告、内海康雄校長による「北近畿における舞鶴高専の地域連携について」、玉田和也教授による「最近の橋の話題」と題した講演が行われました。

また3月5日には、会員企業社員様を対象に「教養講座」をオンラインで開催しました。



オンライン総会の様子



内海校長による講演

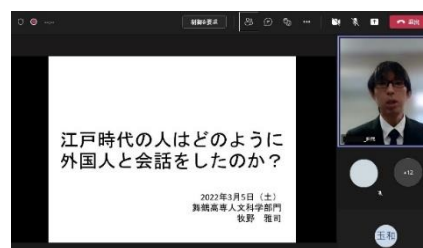


「教養講座」チラシ

第一部として、本校児玉圭司教授による「生活・科学技術と法—AI時代における法の役割」、第二部として、牧野雅司准教授による「江戸時代の人はどのように外国人と会話をしたのか?」と題した講演が行われました。



児玉教授による講演



牧野准教授による講演

2. 科研費説明会

これまでの科研費説明会に代わり、科研費以外の外部資金獲得への機運を高めるべく、本校教職員を対象とした外部資金獲得説明会を、6月24日(木) および 7月20日(火) の2回にわたって開催しました。第1回は、外部資金獲得の重要性について内海校長に説明していただいた後、民間助成に採択されるまでのご自身の経緯を建設システム工学科の毛利先生にお話いただきました。第2回はオンライン形式をやめ現地開催のみとし、約1ヶ月後に迫る科研費応募に関して、科研費採択ご経験のある電気情報工学科の芦澤先生に、過去にご執筆された申請書を交えながら作成におけるポイントなどを説明していただきました。



科研費説明会

3. 研究グループの構築

高専全体の運営交付金の減額が続く状況において、外部資金を獲得することは不可欠となります。また充実した教育を行うためには、教職員が関係する分野における科学・技術や教育方法などの研究が必要です。本校においては、これまでに外部資金の獲得のための説明会、科研費の申請書へのアドバイス、教員とKRAとの研究テーマについての面談、研究推進・産学連携本部が行う研修会への参加などを行ってきました。

昨年度も実施した「研究グループ形成支援事業」を継続し、各分野あるいは分野を横断したメンバーから構成される研究グループを構築することとなりました。これにより、複数の教職員が連携して、より広いあるいは深い教育・研究のテーマの発見や内容の展開、研究の企画・申請・実施の能力の向上、講演や論文数の増加、研究成果の教育への還元などの効果を期待するものです。

令和3年度も、本校の研究活動の活性化（学会発表、論文掲載など）、外部資金獲得（国プロ、科研費、企業との共同研究、その他）の大幅向上を目的として、研究グループの形成および研究グループによる外部資金獲得に向けた必要経費（予算上限40万円／年）に対して支援を行いました。

昨年度採択された研究グループ形成支援事業5件の成果報告については地域共同テクノセンター運営会議にて講評を行いました。令和3年度についても研究グループ形成支援事業の募集を行い、4件の申請から4件が採択されました（コロナの影響を鑑み、旅費については別枠として執行毎に予算配分する）。

4. 展示会

舞鶴高専および教員の研究成果をPRするために積極的に展示会に出展しています。

(1) 建設技術展2021近畿（10月27日、28日）

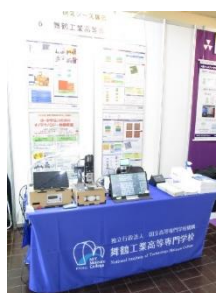


「インテックス大阪」にて開催された建設技術展2021近畿に学校ブースを出展しました。今年度の建設技術展は、ブース数226（内、学校13ブース）、来場者数延べ14,491人でした。

舞鶴高専の学校ブースでは、学校紹介、学生募集、学科紹介、iMecの紹介などのパンフレットの配布を行いました。多くの進路先企業の皆様と情報交換を行うとともに、舞鶴高専の卒業生がブースにたくさん足を運んでくれました。



(2) 京都ビジネス交流フェア2022（令和4年2月17日、18日）



「京都パルスプラザ」にて開催された京都ビジネスフェア2022の産学連携コーナー（産学連携成果及び大学のシーズ発表の場を提供することで、産学連携マッチングを促進するコーナーで、21の大学・高専が出展した。）で出展しました。今年度の参加者数は4,000人、出展者数130社18団体でした。

舞鶴高専のブースでは、研究・技術シーズ集、学校紹介、ナノテクノロジー教育センターなどのパンフレットの配布を行いました。また、清原研究室で開発したポータブルコンパクト室温ナノインプリントシステムの展示と室温ナノインプリントの実演を行いました。多くの企業の皆様と情報交換を行うとともに、舞鶴高専のOBがたくさん足を運んでくれ、高専でもこんな最先端な研究をしているのだと驚いていました。

5. 公開講座・出前授業

舞鶴高専では、地域貢献の重要な手段として、公開講座と出前授業に積極的に取り組んでいます。令和3年度は公開講座を71件、出前授業を35件実施しました。地域共同テクノセンターは公開講座・出前授業を管轄しており、今年度からは実施予定のチラシを6.5万枚印刷し、近隣の中학생全員に配布するなど活性化に向けた取り組みを行っています。



養父市立大屋中学校出前授業
「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋を作ろう！」



公開講座「小・中学生のための
ナノテクノロジー体験教室」



公開講座「3Dプリンターによる
立体造形プログラミング入門」

6. ナノテクノロジー教育センター (ntec)

近年、5Gスマートフォンや電気自動車の需要の急増に加え、スマート治療室の普及など、新たな半導体需要が加わり、より私たちの生活は半導体が無くてはならないものへと変化しています。このように近年多くの半導体が必要とした電子デバイスが爆発的に増加している中、それにともない半導体の需要が急増し、世界的な半導体不足となっているのが現状です。そこで、半導体ナノテクノロジーの基礎となる知識と技術が高専においても必要とされています。半導体ナノテクノロジーの基礎知識を学ぶためには、成膜、リソグラフィ、ドライエッチング、観察のプロセスが必要で、それに対応する装置として、ナノテクノロジー教育センターには真空蒸着装置、電子サイクロトロン共鳴 (ECR) 型イオンシャワー装置、走査型電子顕微鏡 (電子ビーム描画可能)、走査プローブ顕微鏡などの装置がクリーンルーム (クラス1000) 内に設置されています。

これらの機器を利用して、公開講座「小・中学生のためのナノテクノロジー体験教室」を11月3日 (水) に開催しました。今回の公開講座では、清原教員と電子制御工学科5年生3名 (清原研究室所属)、同2年生1名が、身近なところで活用されているナノテクノロジーの紹介、世界的な半導体不足問題、光学顕微鏡の製作とナノインプリントの実験を行いました。清原研究室で開発した超音波振動を利用した液滴室温ナノインプリントリソグラフィで、試作したポータブル室温ナノインプリントシステムを用いて、医療用マイクロマシンの摺動部品で使用するマイクロギヤの転写パターンの形成を行いました。その後、



(a) ナノテクの説明と
大きさ並べ替えクイズ



(b) クリーンルームで
マイクロピペットによる液滴練習

光学顕微鏡を製作し、それを用いて転写したマイクロギヤパターン [3,600個/cm²] の観察と歯先円直径の測定を行い、小さなモノの世界を体験しました。また、皆さんには、ナノテクノロジーと半導体プロセスについて知ってもらうことができました。

専攻科2年生は特別研究、専攻科1年生は特別研究基礎、5年生は卒業研究、また学会発表や展示発表などを行うためにナノテクノロジー教育センターを利用しています。

清原研究室では、産学官共同研究の下でPDMSモールドを用いた超音波振動液滴室温ナノインプリントによるダイヤモンドライクカーボン (DLC) ドットアレイやマイクロギヤの作製を行っており、ECR型イオンシャワーによるDLC膜の加工や転写パターンやイオンシャワー加工後のDLCパターンの観察に走査プローブ顕微鏡を使っています。この得られた研究成果は、THE高専@SEMICON Japan 2021にて展示発表する予定でしたが、昨年に続き中止となりました。

石川研究室では、有機EL材料を応用した有機放射線検出器の開発を行っており、真空蒸着装置を用いて有機デバイスを作製しています。



(c) ナノインプリントによる
マイクロギヤパターン形成



(d) 光学顕微鏡〔300倍〕の製作
およびマイクロギヤの観察と計測

内海研究室では、表面プラズモン共鳴吸収を利用したカラーフィルタ、シリコン太陽電池および半導体教育用ショットキーバリアダイオード教材の開発を行っています。また、これらの成果については応用物理学会で発表しました。

小林研究室では、電子ビーム描画により作製したナノ構造を使って、ナノ構造周りの流れの様子を明らかにしようとしています。

西研究室では、遷移金属酸化物で構成される抵抗変化メモリを作製しその電気的特性を評価しています。酸化タンタルを用いた抵抗変化素子の研究を行っている専攻科1年生は、高専学会や専攻科フォーラムの他、国内学会1件と国際学会2件の対外発表を行いました。また、豊橋技術科学大学の高専連携教育研究プロジェクトとして導電性DLC膜を用いた抵抗変化素子の研究を行っている5年生は、2021年度先進的技術シンポジウムにおいて成果を発表し優秀学術賞を受賞しました。

今後、ナノテクノロジー教育センターは、半導体ナノテクノロジーの基礎知識の習得の場として、また京都府北部の中小企業に対して最先端のナノテクノロジー（超微細加工技術）に触れる場として産学共同研究の拠点となることを望んでいます。

7. 知的財産セミナー

地域共同テクノセンターでは、本科4年生を対象とした知的財産セミナーを11月29日（月）に開催（7, 8時限M・S, 9, 10時限E・C）しました。

弁理士 千原清誠氏に特許出願動向について、ユニクロ・セルフレジ事件のゆくえ、白猫プロジェクトの事件では何が争われたか、建築デザインの保護が強化された、AIは発明者になれるかについて講義していただきました。

知的財産権に関する基礎知識、また社会人になるに当たって最低限必要な特許の知識を学びました。非常に興味深く聞き入る学生が多く、積極的に発想力クイズなどに解答する多くの学生たちの姿が見られました。



8. その他

地域共同テクノセンターの今年度のその他の事業としては、公開講座・出前授業開催時のコロナ対策に資する検温カメラ、CO₂モニターを購入し、安心・安全な公開講座・出前授業の実施に向けた万全な準備を行いました。

社会基盤メンテナンス教育センター (iMec)

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

安全・安心な暮らしには、橋梁やトンネル、高速道路等の社会基盤（インフラ）の適正な維持管理が不可欠です。インフラの老朽化が全国的に問題となる中、市町村では技術力不足のため適切な維持管理が困難な状況にあります。『建設』から『維持管理』へ思考を転換し、インフラの維持管理や修繕等に対応できる人材の育成が急務となっています。

1. 社会基盤メンテナンス教育センター (iMec) 講習会

iMecでは、e+iMec講習会において、全国の建設系の高専生、行政機関技術職員、民間企業技術者等を対象に、地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラムを実施しています。

e+iMec講習会では、事前学修として講習会2週間前よりeラーニングを行い、iMecでの講習会は体験型学修に重点を置いてアクティブ・ラーニングを行うことで、効率的かつ効果的な教育を行っています。学修ニーズに対応して、橋梁点検、橋梁診断、専門特修講座（構造物の詳細調査、橋梁長寿命化対策、施工技術と施工管理、建設ICT）、地盤と斜面、コンクリートの品質管理の講習会を実施しており、今年度はe+iMec講習会を21回開催し、171名が受講しました。また、令和4年3月末時点での累計受講者数は、1360名です。

橋梁メンテナンス技術者育成のステップアップ型教育プログラムとして、基礎編（橋梁点検）、応用編（橋梁点検）及び橋梁診断講習会を実施しており、講習会修了後に実施する技術資格認定試験の合格者には、（独）国立高等専門学校機構として技術資格（准橋梁点検技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者は国土交通省登録資格）を認定しています。令和4年3月末時点での資格登録者数は、准橋梁点検技術者452名、橋梁点検技術者は50名、橋梁診断技術者は2名です。

“e+iMec講習会”

produced by Infrastructure Maintenance Educational Center



～地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラム～

eラーニングと講習会を組合せたアクティブ・ラーニング（能動的学修）

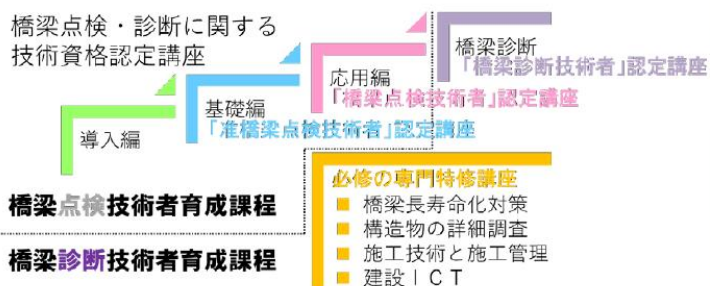
オンデマンド型自己学修支援システム

- ・講習会前の事前学修
- ・講習会後の継続学修

e-learning + iMec 講習会
Active-Learning

社会基盤の維持管理に関する実践的教育施設で座学と体験型学修による効果的な教育を実施

《 橋梁点検技術者育成のためのステップアップ型教育プログラム 》



	開催概要	受講実績 (R4.3月末)		
基礎編	毎年度10回程度 4月～12月に開催 (月1・2回程度) 2日間講習@iMec	行政	251人	1049人 ※
		民間	662人	
応用編	毎年度2回程度 8月～9月に開催 3日間講習@iMec	行政	19人	122人
		民間	103人	
橋梁診断	毎年度1回程度 12月～1月に開催 2日間講習@iMec	行政	2人	10人
		民間	8人	

※連携4高専でのプログラム試行の受講者(52人)を含む

- (独)国立高等専門学校機構認定技術資格(『准橋梁点検技術者』、『橋梁点検技術者』及び『橋梁診断技術者』)を取得可能
- 『橋梁点検技術者』は国土交通省登録資格(品確技資第170号・品確技資第183号)
- 『橋梁診断技術者』は国土交通省登録資格(品確技資第336号・品確技資第342号)

技術資格認定登録状況 (R4.3月末)

准橋梁点検技術者 452人 橋梁点検技術者 50人 橋梁診断技術者 2人

舞鶴工業高等専門学校
社会基盤メンテナンス教育センター

2. e + i M e c 講習会【橋梁診断】の開発と「橋梁診断技術者」の国土交通省技術資格登録

i M e c では、ステップアップ型の橋梁点検講習会を実施しています。これまで、基礎編、応用編講習会を開催していましたが、今年度は、新たに e + i M e c 講習会【橋梁診断】を開発して、実証講座を行いました。実証講座には行政機関及び民間企業から土木技術者の方10名に参加いただきました。

講習会では個人ワーク、グループワークで鋼橋とコンクリート橋の橋梁診断演習を行いました。講習会の最後に学修到達度確認試験を実施し、合格者は橋梁診断技術者に認定されました。

「橋梁診断技術者」は、国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する施術者資格」に登録されています（品確技資第336号、第342号）。

i M e c は、今後もインフラメンテナンス技術者の育成にますます尽力するとともに、予防保全の中核的施設として地域固有のニーズに応え、地域社会に貢献してまいります。



国際交流センター

国際交流センター長 藤田 憲司

1. 国際交流センターの運営

国際交流センター運営委員会のメンバーおよび業務分担は以下のとおりである。

氏名	業務分担	備考
藤田 憲司	統括, e インターンシップの連絡調整, KMITL との連絡調整, 研修旅行訪問大学との連絡調整, ポーツマス大学との連携	国際交流センター長
大内 真一郎	国際交流学生大使 (SA) 指導	人文科学部門
Jimmy Aames	研修旅行訪問大学との連絡調整, 学生交流プログラム作成および学生指導	人文科学部門
熊谷 大雅	留学支援	自然科学部門
小林 洋平	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, 留学支援 (高学年)	機械工学科
竹澤 智樹	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電気情報工学科
藤司 純一	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電子制御工学科 2021 年 4 月～9 月
清原 修二	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電子制御工学科 2021 年 10 月～2022 年 3 月
渡部 昌弘	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, KMITL 研修生受け入れ次年度担当学科との連絡調整	建設システム工学科
増永 武夫	事務手続きの承認	総務課長
山口 秀朗	事務手続きの承認	学生課長
嵯峨 信子	事務手続きの実施	学生課職員

2. 国際交流センターの活動概要

- ① 海外協定校からの短期研修生受け入れ (キングモンクット工科大学サマートレーニング)
前年度に引き続き, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れ中止となった。代替措置として e インターンシップの受け入れを申し出たが, 参加希望者はいなかった。
- ② 海外インターンシップ
前年度に引き続き, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため派遣中止となった。代替措置として KMITL から e インターンシップの提案があり, 専攻科 1・2 年生を対象に募集を行ったが, 参加希望者はいなかった。
- ③ 海外研修旅行
前年度に引き続き, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。
- ④ 留学支援
 - ・ AFS 留学プログラムに 2 年生 1 名が申請し, 採用となった。
 - ・ 「トビタテ! 留学 JAPAN」 高校生コースに採用されていた 3 年生 2 名が, 渡航レベル制限のためプログラムを実施することができず, 留学を断念することになった。
- ⑤ その他の活動
 - ・ 「国際交流学生大使」 (SA) を代表して, 6 月 21 日に学生 3 名が東舞鶴高校での留学生交流会に参加した。
 - ・ SA メンバーが「SA Journal」 第一号を発刊した。

知的財産委員会

知的財産委員会委員長 玉田 和也

本校に所属する教職員等が、職務発明等を創出した場合、又は職務発明等の可能性があると思料される発明等を創出した場合、知的財産委員会へ発明等届を提出することとなっています。

今年度、知的財産委員会への発明等届の提出がなかったため、知的財産委員会は開催しませんでした。

生命倫理委員会

生命倫理委員会委員長 玉田 和也

生命倫理委員会は、本校教職員が行うヒトを対象とする研究に対し、人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようにすることを目的としています。今年度は以下の日程で開催しました。

1. 生命倫理委員会の開催と審議内容について

○第1回生命倫理委員会：令和4年1月25日

- ・研究計画の倫理審査について（1件）

申 請 者 森 健太郎

研究課題名「医療データ拡張に関する研究」

情報セキュリティ推進委員会

情報セキュリティ推進委員会委員長 伊藤 稔

情報セキュリティ推進委員会は、本校の情報セキュリティに関わる専門的及び技術的問題の審議と、情報セキュリティの推進を行うことを目的にしている。

1. 情報セキュリティに関する情報共有と注意喚起

令和3年秋ごろより Emotet の攻撃活動再開の兆候が報じられていた中、本校においても Emotet と思われるメールが冬～春にかけ大量に着弾した。多くのメールはサーバ上のフィルタリングにより隔離されているが、数件のメールが教職員の手元に受信されることとなった。迅速に学内へ注意喚起を実施、同時に Emotet による感染チェックも依頼した。幸いにして今のところは感染の報告がないが、引き続き注意が必要と考える。

新型コロナウイルス感染症の流行により、在宅勤務や遠隔授業などネットワークを活用した日常が当たり前になっている。情報セキュリティ推進委員会としては、教職員や学生のセキュリティ意識の向上・啓蒙を通じ、セキュリティインシデントを未然に防ぎつつ、不足の事態が発生した場合には、迅速に対応できるよう注意していきたい。

2. Microsoft 365 多要素・多段階認証の導入

昨年度、高専機構より、教職員および学生の機構テナント Microsoft 365 アカウントについて、多要素・多段階認証を導入するよう通知があった。教職員のアカウントについては、昨年度中に導入が完了していた。学生のアカウントについても、今年度の9月～10月に全アカウントへの導入が完了した。次年度以降は、新入生向けのネットワーク講習会などを通じて導入を進めていく計画である。

3. インシデント件数

残念ながら、今年度は3件（未遂1件）のインシデントが発生した。それぞれの事案について再度の注意喚起を行うなどの対応を行った。

4. IT 資産管理

高専機構では、IT 資産管理ソフトウェア（ASSETBASE）を使用しソフトウェアを含む情報資産の管理を行っており、ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェアライセンスの検査結果を毎年報告することになっている。今年度も、教職員の協力のもとに検査報告を完了することができた。次年度は、高専機構により、新しく整備された情報システム台帳などへの対応を行う予定である。

5. IT 資産管理

高専機構における情報セキュリティポリシーの上位規則ならびにひな型の改定に伴い、本校の規程類も大幅に見直し、修正を行った。

評 価 委 員 会

評価委員会委員長 奥村 昌司

1. 自己点検・評価の実施

令和2年度の本校の年度計画と実績について自己点検・評価を実施し、すべての項目が計画通りに活動されていることを確認した。またこの結果を本校ホームページに「年度計画の実績報告」として公表した。昨年度から学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価として、認証評価機関が定める高等専門学校評価基準に基づき作成した点検項目について自己点検・評価を実施している。点検の結果、対応が必要な事項については対応を行った。また結果を本校ホームページにて「自己点検評価書」として公表している。今後これらの点検項目について定期的に自己点検・評価を行うとともに、改善点が挙げられた場合には改善状況を確認する。

2. 高等専門学校機関別認証評価の指摘事項への対応

昨年度、受審した高等専門学校機関別認証評価において改善を要するとして指摘を受けた項目について、確認を行い対応した。

3. 外部評価委員会の開催

令和3年度の外部評価委員会委員は下記の学外有識者の皆様に就任していただいた。

長岡技術科学大学	学長	鎌土 重晴 氏
明石工業高等専門学校	校長	神戸 宣明 氏
株式会社日進製作所	人事部長	室田 真司 氏
舞鶴市中学校長会	会長	廣瀬 直樹 氏
舞鶴市政策推進部	部長	有吉 央顕 氏
京都新聞舞鶴支局	支局長	長尾 康行 氏
舞鶴工業高等専門学校後援会	会長	樫木 和穂 氏

令和4年3月23日に外部評価委員会を開催した。コロナ対応のためオンラインでの開催となった。議題は以下の4項目で、学校長ならびに本校の各担当教員から状況説明を行った。

1. 高専の概要について（内海康雄 校長）
2. 検討課題の状況及び舞鶴高専の自己点検について（奥村昌司 評価委員会委員長）
3. 教務・学生生活・寮生活について（川田昌克 教務主事，片山英昭 学生主事，豊田香 寮務主事）
4. 地域連携について（内海康雄 校長）

委員からの質問・コメント等の議事内容は、本校ホームページに掲載される予定である。

4. 学校評価アンケートの実施

3年毎に実施している学校評価アンケートについては、昨年度に実施したため、今年度は実施しなかった。

資料部会

資料部会部会長 宝利 剛

本部会は、評価委員会の下部組織として、評価のもととなるアンケートの実施、資料の収集・保管を主として行っている。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏 名	所 属	主たる役割	氏 名	所 属	主たる役割
宝利 剛	自然科学	全体の連絡調整	増永 武夫	総務課	総務課連絡調整
エイムズ ジミー	人文科学	1・2年生アンケート 授業アンケート	山口 秀朗	学生課	学生課連絡調整
篠原 正浩	機械	授業アンケート	芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、 連絡調整
森 健太郎	電気情報	卒業生アンケート 授業アンケート	石井 貴弘	支援センター (協力)	授業アンケート 設定及び集計
清原 修二	電子制御	授業アンケート	金丸 亮太	教務係 (協力)	授業アンケート 設定補助
四蔵 茂雄	建設システム	授業アンケート			

1. 授業アンケート・達成度評価の実施

今年度より、授業アンケートの実施及び回答の集計を資料部会で実施し、結果分析はFD・ICT部会で実施している。今年度も全科目に対して授業アンケートを実施した。

今年度は、アンケート回答率の向上を図り、前後期とも、到達度確認期間中からアンケートに回答できる環境を構築した。また、学生の授業アンケートに対する関心を促すため、回答集計結果の一部（全科目の結果と自学自習時間に関する結果）を学生に公開した。

前期授業アンケートは、令和3年9月29日（水）～10月8日（金）の期間で実施した。回答率は前年度と同様の80%であった。後期授業アンケートは、令和4年2月16日（水）～22日（火）の期間で実施したが、回答率が悪かったため回答期限を2月28日（月）まで延長した。回答率は82%で、前年度の74%から6%向上した。

授業アンケートに付随して実施していたCOC事業に関するアンケートは今年度より廃止した。

2. 在校生に対するアンケート

新入生に対して、入学動機、AP適合度合に関するアンケートを令和3年6月15日（火）～6月30日（水）の期間で実施した。また、2年生に対して、学校生活に関するアンケートを同期間で実施した。卒業（修了）する5年生（専攻科2年生）に対しては、満足度調査を令和4年2月7日（月）～10日（木）の期間で実施したが、回答率が悪かったため、回答期限を28日（月）まで延長した。本部会ではこれらのアンケートに対する回答を集計し、集計結果を関係部署に共有している。

3. 資料の収集・保管

上記のほか、評価のもととなる資料を関係部署より収集し、保管している。また、必要に応じて、収集した資料を再集計し、関連部署に情報を提供している。

広 報 委 員 会

広報委員会副委員長 小野 伸一郎

1. 広報委員会の活動概要

令和2年度から、広報委員会は、委員長を校長、副委員長を総務担当副校長とし、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、学術情報センター長、ホームページ部会長、入試広報部会長、事務部長、総務課長、学生課長が委員として構成されている。

「学校概要」、「学校だより」、「年報」といった刊行物は学術情報センター運営委員会が、ホームページの運用などについては同委員会ホームページ部会が所掌しており、志願者数確保のため、入試委員会の下に入試広報部会が設置されている。本委員会において、学術情報センター長、ホームページ部会長および入試広報部会長が、活動方針などを報告する。

2. 広報委員会での報告事項

学術情報センター

今年度の刊行物の発刊に関して報告があった。

ホームページ部会

学校ホームページの学校生活紹介（ブログ）記事投稿や、学科紹介ページの運用開始、YouTube 学校公式チャンネル開設について報告があった。限定公開としている YouTube 学校公式チャンネルについては、今後運用ルールを整備したうえで、限定ではない公開をしていくこととなった。

入試広報部会

中学校進路説明会、中学校訪問計画、入試広報行事および入試説明会の実施報告もしくは実施予定、中学校校外学習受け入れ、舞鶴GIGA-SCHOOLの協力について報告があった。また、入試広報関連として、以下の事項を進めていくこととなった。

- ・ジュニアドクター育成塾、出前授業、公開講座など本校で実施している様々な広報活動の整理をし、合理的な予算執行など、連携を取り対応していく
- ・次年度の実施に向けたパノラマコンテンツ作成

教育プログラム(MDE)委員会

教育プログラム(MDE)委員会委員長 加登 文学

1. 「総合システム工学」教育プログラム修了生数について

令和3年度の「総合システム工学」教育プログラム修了生は、電気電子システム工学コース10名、機械制御システム工学コース12名、建設工学コース5名、計27名である。現在までのプログラム修了生の数を以下に示す。

修了年度	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3
プログラム修了生	16	17	15	16	18	22	19	14	16	27※
専攻科修了生	17	17	15	16	19	22	19	14	16	27

※令和3年3月31日をもってJABEE技術者教育プログラムの認定継続は辞退しており、令和3年度修了生に対してJABEE認定は適用されない。

2. 教育プログラム(MDE)委員会の活動記録

○令和3年5月18日(火) 第1回教育プログラム(MDE)委員会の開催

(協議事項)

1. 令和2年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書について
2. 委員会の廃止について
3. その他

○令和4年2月8日(火) 第2回教育プログラム(MDE)委員会の開催(専攻科委員会との合同開催)

(協議事項)

1. 再試験の実施について
2. 専攻科2年生の修了認定について
3. 専攻科2年生の教育プログラム修了認定について
4. その他

○令和4年2月8日(火) 第3回教育プログラム(MDE)委員会の開催

(協議事項)

1. 令和3年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書(案)について
2. その他

○令和4年3月23日(水) 第4回教育プログラム(MDE)委員会の開催

(協議事項)

1. 令和3年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書について
2. その他

3. 「総合システム工学」プログラムの運用について

本校の「総合システム工学」プログラムの運用は令和3年度専攻科2年生まで適用する、としており、今年度の修了生が最後のプログラム修了生となる。

進路指導委員会

進路指導委員会 委員長
副委員長（就職）
副委員長（進学）

芦澤 恵太
高木 太郎
毛利 聡

1. 令和3年度の活動報告

1.1 主たる委員会報告事項、協議事項

○第1回進路指導委員会（令和3年4月1日）

- (1) 今年度の実施体制と方針確認 (2) 昨年度の報告 (3) 書類発行申請の臨時許可について
(4) インターンシップについて (5) 年間スケジュールとアナウンスについて

○第2回進路指導委員会（令和3年7月1日）

- (1) 進路活動状況 (2) インターンシップについて（派遣計画）
(3) 合同学校説明会・キャリアセミナーの実施について (4) 予算計画について

○第3回進路指導委員会（令和3年9月21日）

- (1) インターンシップについて (2) 合同学校説明会について (3) キャリアセミナーについて
(4) 活動報告書について (5) 進路活動状況について (6) 予算計画

○第4回進路指導委員会（令和3年11月24日）

- (1) 合同学校説明会について (2) キャリアセミナーについて

○第5回進路指導委員会（令和4年2月7日）

- (1) 企業訪問について (2) 3者面談について (3) 令和3年度進路活動の振り返りについて

○第6回進路指導委員会（令和4年3月30日）

- (1) 進路活動状況 (2) 舞鶴工業高等専門学校職業紹介業務運営規程その他について
(3) 予算執行報告について

1.2 進路ガイダンス

昨年度に続き、視聴覚室に学生を集めての実施を避けた。例年、委員長・副委員長が講師役を務めることが多いが、今年度は資料を提供し、担任によるガイダンスの実施となった回もある。初めての取り組みとして、卒業していく5年生向けのガイダンスを企画し、京都ジョブパークからキャリアコンサルタントの講師を招いて就職後のストレスケアについてのガイダンスを実施した。

1.3 合同学校説明会とキャリアセミナー

12月4日に合同学校説明会をオンラインで開催した。参加大学等は14校で、約190名の学生が事前参加登録を行い参加した。また、参加企業を2日間で70社に絞って対面形式でキャリアセミナーを開催した。のべ320名の学生が参加した。また、高木副委員長のもと昨年度同様に本校学生用の専用サイト（R4.1月末まで公開）を設けることで、学生たちに企業情報を学習する場を与えた。

1.4 進学合宿

毛利副委員長、岡田教員、宝利教員が主となり、3月14日～18日に編入学試験対策を主として合宿を実施した。初めての試みであったが20名を超える4年生が午前中には数学・物理の頻出問題に取り組み、午後は各自の課題に取り組んだ。

2. 令和3年度の進路状況

令和4年春採用生（本科5年生）に対しては約830社からの求人票と70を超える団体（国、府県、市町村、警察、消防、国立大学法人、機構等）からの求人案内が届いた。昨年度に続き60%という高い比率の学生が就職を希望し、進路の決定に至った。進学活動については1名が編入学を目指して浪人するという結論に至った。

就職活動において、複数回の面談がある場合、WEBを利用しての1次面談の実施は定着した感がある。また、各種応募書類のWEB提出を求められることが昨年度よりずいぶん多くなった。編入学試験においても同様にWEB出願を採用する学校が徐々にではあるが増えてきているように感じる。

学 生 相 談 室

学生相談室室長 児玉 圭司

1. 学生相談室スタッフ

本年度は、学生相談室長・児玉圭司（人文）のほか、荻田みどり（人文）、岡下朋世（人文、11月から）、岡田浩嗣（自然）、喜友名朝也（自然）、谷川博哉（機械）、七森公碩（電気）、石川一平（制御）、四蔵茂雄（建設）、毛利聡（建設）、山口秀朗（学生課長）、清水智苗美（看護師）、黒田友基（カウンセラー[精神科医]）、中川亜希（カウンセラー[臨床心理士]）、坂口なぎさ（カウンセラー[臨床心理士]）の体制で相談室を運営した。

2. 相談体制・相談件数

今年度も、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う遠隔授業期間や臨時休校期間が設けられたため、カウンセラーの相談日程も、適宜変更を余儀なくされた。

前年度、遠隔授業への対応や、学校・学寮生活でのさまざまな制限に起因して、心身に不調をきたす学生が多かったとの分析にもとづき、今年度は臨床心理士のカウンセラーに平均して週4日のご勤務をお願いした。精神科医のカウンセラーには従来通り月1回（原則として第2週の火・水曜日のいずれか）お越しいただいた。加えて、今年度は遠隔授業中もカウンセリングを受けられるように、Web（Teams）や電話を用いた相談にも常時対応した。

教職員の室員による相談も随時受け付けているが、その大部分は看護師の清水先生に担っていただいている。

本年度の相談件数はのべ635件、うち教職員への相談件数が233件、精神科医への相談件数が6件、臨床心理士への相談件数が396件であった。通年で相談室が開かれていた一昨年度と比べて、相談件数はやや増加している。

3. 「学校適応感尺度調査」の実施

今年度は、6月および10、11月の2度にわたり「学校適応感尺度調査」を実施し、学生が抱える悩みや問題の早期把握に努めた。「学校適応感尺度調査」の結果を踏まえて面談対象学生を選定し、担任・コース長または学生相談室員が面談を行った。面談を行った学生はのべ212名にのぼり、面談を経てカウンセラーへと繋いだ学生も複数存在する。

4. 教職員研修の実施ほか

本年度は、教職員を対象に以下の研修・講演を実施した。

- 4月8日（木）～ 高専機構提供「学生との信頼関係構築のために」
講師：濱中ミオ・本田佑（仙台高等専門学校カウンセラー）
- 5月20日（木） 舞鶴高専新任教職員向け研修「学生のメンタルヘルスについて」
講師：坂口なぎさ先生（本校カウンセラー、臨床心理士）
- 6月23日（水） 「LGBT研修」（会場：視聴覚教室、男女共同参画室等と共催）

5. 学生向けの活動

通常の相談業務以外にも、学生を対象として以下の事業に取り組んでいる。今年度も昨年度に続いて、コロナ禍の影響で「学生相談室 de ティータイム」を実施することができず、学生のストレス軽減を図るため以下の諸施策を実施した。

- 通年 図書館1階ラーニングコモンズにフリーWi-Fiスポットの設置（安らげる場所の確保）
- 4月 1年生各クラス「舞鶴高専PEER～出会いと回復のピアプログラム」（学生委員会を支援）
- 4月 全学生対象担任・コース長面談
- 5月11日（火）、24日（月） 2年生対象「メンタルヘルス講演会」（坂口カウンセラー）
- 11月 ピアサポーター（専攻科生TA）の選出、および「放課後教室」での学習サポート

6. 各種研究会・研修会・協議会への参加

学生相談に関する研鑽を積むため、また他校との学生相談に関する情報交換のため、下記に示す各種研究会、研修会、協議会に参加した（〔 〕内は参加者名、敬称略）。

- 令和3年度府立高等学校両丹地区保健研究協議会第1回総会[児玉]
7月5日（月） 京都府立網野高等学校
- 近畿学生相談研究会第153回定期総会
11月2日（火）～16日（火） 書面附議（メール審議）
- 近畿地区カウンセリング連絡協議会
11月25日（木） 承合事項のメールによる情報共有（主幹校：近大高専）
- 令和3年度第2回府立高等学校両丹地区保健研究協議会[児玉]
12月8日（水） 京都府立網野高等学校
- 第18回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修[岡田, 清水]
12月16, 17日（木・金） 会場：学術総合センター
- 日本学生支援機構オンラインセミナー[児玉・岡田]
第1部「改正障害者差別解消法の施行に向けて」
12月17日（金）～3月31日（木） オンライン

修 学 支 援 室

修学支援室室長 牧野 雅司

1. 支援室および支援委員会の体制

今年度の修学支援室は、室長の牧野雅司（人文）をはじめ、山根秀介（人文・教務主事補）、上杉智子（自然・学生主事補）、児玉圭司（人文・寮務主事補）、の教員3名、さらに特命教授・後野文雄（特別支援教育士スーパーバイザー）、特命助教・橋本茂の計6名で構成されている。

常勤教員の室員は、保護者・学生からの申し出があった際に、担任とチームを組んで、対応や合理的配慮に関する検討・調整をコーディネートする役割を負う。後野特命教授は、保護者・学生や担任からの個別相談に応じていただくほか、個別の事案について専門的知見をもとにご助言をいただいている。橋本助教には、中学校において通級指導教室などでの指導をなさっておられた経験を生かして、学生へのスキルトレーニングや定期的な面談を実施していただいている。

上部機関にあたる修学支援委員会は、修学支援室が検討した合理的配慮（または配慮が必要でない旨）に関する答申を踏まえ、本校としての意思決定を行う。

2. 活動実績

令和3年度の活動実績は、以下の通りである。

- ・修学支援室で対応した学生 7名
- ・後野特命教授による個別面談・助言等 延べ104件（保護者対応、学内協議・助言を含む）
- ・橋本特命助教による個別面談 対象学生 4名、のべ89回
- ・新規の合理的配慮 2件（試験時間延長、橋本先生による面談）

3. 学生対象講演会

4月16日（金） 1年生対象人権教育「いじめ防止講演会」
講師：後野文雄先生

4. 研修・発表等

《教職員対象》

5月18日（火）1年生学年団会議にて研修会
「気になる学生についての報告と対応について」
講師：後野文雄先生

《研修》

※今年度はコロナ禍の影響もあり、学外での研修に参加する機会は限られた。

入 試 広 報 部 会

入試広報部会部会長 小野 伸一郎

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和3年度新入学生は定員を割る事態となった。このため志願者の確保が本校の最重要課題となり、入試広報活動の充実が使命となった。しかしながら4月以降も新型コロナウイルス感染症の猛威が収まらず、本府に対して4/25～6/20、8/20～9/30の期間に緊急事態宣言が発出された。そのためオンライン開催に変更を余儀なくされた活動も多い中、学校全体の協力を得て、下記のような活動を行った。

1. 先がけ中学校訪問

令和3年度入試では定員割れにより、2次募集も行った。このため新入生の本校定着が重要課題となり、3月上旬に中丹、丹後、嶺南地区の中学校37校を訪問し中学からの接続情報を早期に得た。同時に先どりサイエンス教室のパンフレットを配付した。

2. 先どりサイエンス教室

令和3年3月27日（土）、3月28日（日）、中学生1・2年生を対象に、「光の正体」、「色の仕組み」の2テーマで講義と実験を行った。参加延べ人数は生徒39名、保護者29名であった。

3. 学校説明会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、一昨年までのような体験型プレオープンキャンパスは実施しなかった。代替として学校説明会をオンライン形式で6回と、対面形式で17回実施した。参加人数を表1に示す。（※オンラインの参加人数は、申込者数を生徒・保護者数にそれぞれ反映した。）

表1 学校説明会参加人数

開催日	場所	回数	生徒	保護者
R3. 5. 29（土）	オンライン	1	44	44
R3. 5. 30（日）	オンライン	2	39	39
R3. 6. 5（土）	オンライン	1	18	18
R3. 6. 6（日）	オンライン	1	40	40
R3. 6. 12（土）	京都	2	46	47
R3. 6. 13（日）	京都	3	42	41
	小浜	3	1	1
R3. 6. 19（土）	豊岡	1	8	8
R3. 6. 20（日）	高島	2	13	14
R3. 6. 26（土）	精華町	2	27	29
R3. 6. 27（日）	亀岡	2	23	26
R3. 7. 3（土）	本校	1	27	27
R3. 7. 4（日）	本校	1	28	25

4. オープンキャンパス

従来通りの対面・体験型のオープンキャンパスを実施した。新型コロナウイルス感染予防の観点から、次の条件を設けた。1) 1日を前半（14:00以前）・後半（14:00以降）に分け、前半の入場者数を160組に制限、1日の最大入場者数を320組に制限した。2) 体験授業の参加者数を1回20名とした。3) 昼食を提供しない。また、構内での食事を禁止した。参加人数を次の表2に示す。

表2 オープンキャンパス参加人数

開催日	総来場者数	保護者数	生徒数	中学3年生			中学2年生			中学1年生			高校生・小学生		
				全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
R3.8.7 (土)	382	218	166	82	70	12	64	60	4	5	3	2	13	8	5
R3.8.8 (日)	588	352	239	139	104	35	73	59	14	14	11	3	10	8	2
R3.8.9 (月)	334	203	134	68	56	12	46	41	5	7	7	0	10	7	3
計	1,304	773	539	289	230	59	183	160	23	26	21	5	33	23	10

5. 中学校訪問

近年に入学者・受験者があった学校を重点に訪問を行った。訪問地域と校数は、京丹後・福知山・亀岡・宮津・京都市・滋賀・川西・三田の合計275校で、新型コロナウイルス感染症の影響により6月以降順次訪問した。

6. 中学校主催学校説明会

個別の中学校から合計16件の学校紹介の依頼を受け、説明会を行った。中学校説明会参加校名を表3に示す。

表3 中学校説明会参加校名

開催日	中学校
R3.6.8 (火)	京丹後市立大宮中学校
R3.6.15 (火)	守山市立守山南中学校
R3.6.16 (水)	舞鶴市立城北中学校
R3.6.25 (金)	守山市立明富中学校
R3.6.29 (火)	おおい町立大飯中学校
R3.6.29 (火)	与謝野町立加悦中学校
R3.6.30 (水)	小浜市立小浜第二中学校
R3.7.1 (木)	若狭町立上中中学校
R3.7.2 (金)	高浜町立高浜中学校
R3.7.6 (火)	舞鶴市立城南中学校
R3.7.7 (水)	おおい町立名田庄中学校
R3.7.9 (金)	小浜市立小浜中学校
R3.9.16 (木)	丹波市立柏原中学校
R3.9.21 (火)	丹波市立青垣中学校
R3.9.21 (火)	丹波市立氷上中学校
R3.11.5 (金)	守山市立守山南中学校

7. 入試説明会

9～11月にかけて本校を始め、表4のような地域で中学生、保護者、中学教員、塾講師向け入試説明会を行った。

表4 入試説明会参加人数

開催日	場所	回数	生徒（教員）	保護者
R3. 9. 12（日）	オンライン	2	91	91
R3. 9. 19（日）	オンライン	2	35	35
R3. 9. 26（日）	オンライン	2	40	40
R3. 10. 3（日）	本校	1	11	11
R3. 10. 3（日）	京都大学吉田キャンパス	2	18	19
R3. 10. 7（木）	本校（教員対象）	1	(20)	－
R3. 10. 10（日）	本校	1	8	8
R3. 10. 11（月）	大津市ふれあいプラザ（教員対象）	1	(7)	－
R3. 10. 14（木）	三田市総合文化センター（教員対象）	1	(12)	－
R3. 10. 18（月）	京都テルサ（塾講師対象）	1	(16)	－
R3. 10. 19（火）	京都テルサ（教員対象）	1	(23)	－
R3. 10. 30（土）	本校	1	23	23
R3. 10. 31（日）	本校	1	16	15
R3. 11. 28（日）	本校	1	21	21

8. あやべ理工系ことはじめ教室

本校と京都工芸繊維大学が主催し、京都府と綾部市の共催で北部産業創造センター（綾部市）にて開催した。綾部市および福知山市の小・中学校にパンフレットを配付し参加者を募った。参加人数を表5に示す。

表5 参加人数

開催日	講座名	参加対象	生徒 (児童)	保護者
R3. 6. 26（土）	クレーンを作って遊ぼう（本校）	中学生	10	4
	プログラム＋電気回路＝オリジナルイルミネーション（本校）			
R3. 7. 18（日）	フェイスシールドを設計しよう！（本校）	中学生	11	8
	住吉の長屋の模型を造る（本校）			
R3. 8. 22（日）	魔法の棒「ヒートパイプ」で熱の伝わり方を学ぼう！（本校）	中学生	中止	
	太陽電池で遊ぼう！（本校）	小5・6		
R3. 9. 26（日）	段ボールで作る本格派ロボットハンド（本校）	中学生		
	水をきれいにする試み（本校）	小5・6		
R3. 10. 24（日）	つくろう！カラフルLEDランタン（本校）	中学生	1 (15)	16
	人工繊維を合成してみよう（工繊大）	小5・6		
R3. 11. 28（日）	作って学ぼう！～ストロー多面体～（本校）	中学生	1 (22)	27
	ガラスと金属が握手～七宝焼きを作ってみよう！～（工繊大）	小5・6		

9. その他の入試広報イベント

その他の入試広報部会主催の入試広報イベントについて、表6に示す。

表6 その他のイベント

開催日	イベント	場所	生徒	保護者
R3. 5. 22 (土)	オンライン学校説明会	オンライン	76	76
R3. 6. 12 (土)	先どりプログラミング教室	本校	64	51
R3. 6. 18 (金) R3. 6. 25 (金)	中学校教員向け授業見学・学校説明会 および出身中学校連絡会	本校	(37)	－
R3. 7. 8 (木)	校外学習 (舞鶴市立若浦中学校 3 年生)	本校	45	－
R3. 7. 11 (日)	KOSEN FES. 2021 大阪 (国公立高専合同学校説明会)	大阪梅田	－	－
R3. 7. 15 (木)	校外学習 (福知山市立成和中学校 2 年生)	本校	80	
R3. 7. 18 (日)	オンライン女子会	オンライン	28	28
R3. 10. 3 (日)	キラキラ女子会	本校	14	13
R3. 10. 26 (火)	出前授業 (舞鶴市立和田中学校 1・2 年生)	和田中学校	64	－
R3. 10. 30 (土)	地域みらい留学オンライン学校紹介 (高専機構)	オンライン	－	－
R3. 10. 30 (土)	入試相談 (高専祭)	本校	－	－
R3. 10. 31 (日)	入試相談 (高専祭)	本校	－	－

10. 地域広報誌への学校紹介

福知山広報誌「ラサンカ」8月号に学校紹介と、福知山市出身学生2人と本校教員1名の紹介を掲載した。

留 学 生 委 員 会

留学生委員会委員長 川田 昌克

1. 在籍状況

令和3年度は、国費外国人留学生2名、モンゴル政府派遣留学生1名、マレーシア政府派遣留学生1名の計4名の留学生在籍している。所属学科、学年等を表1に示す。令和4年3月には、1名が機械工学科を、1名が電気情報工学科を卒業した。

表1 令和3年度の留学生

				令和3年4月現在
性別	国籍	所属学科・学年	入学年度	備考
男	モンゴル	機械工学科5年	H30	モンゴル政府派遣留学生
男	モンゴル	電気情報工学科5年	H31(R1)	国費外国人留学生
女	モンゴル	電気情報工学科3年	R3	国費外国人留学生
男	マレーシア	建設システム工学科3年	R3	マレーシア政府派遣留学生

コロナ禍の影響で令和3年度に入学した留学生1名の日本入国が困難となり、半年間、遠隔授業を実施した。その後、9月下旬に来日することができ、2週間の隔離処置の後、10月11日に本校に到着した。

2. 留学生関連行事

2.1 留学生研修旅行

例年は1泊2日で留学生研修旅行を行うが、今年度は昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症対応のため、日帰りとし、以下の通り実施した。

日程：令和3年11月3日（水・祝日）

見学場所：鳴門海峡うず潮クルージング、淡路島かわらや、阿波踊り会館等

参加者：留学生3名、5E担任丹下、学生課富田 計5名



瓦彫刻体験



阿波踊り会館

留学生達は、鳴門海峡のうず潮クルージングを満喫し、間近で見る大迫力のうず潮に感動したようである。昼食時に訪れた「淡路島かわらや」では、名物の瓦焼きを堪能し、瓦彫刻体験で粘土を使った作品制作に各自取り組んだ。また、最後に訪れた阿波踊り会館では、実演鑑賞と踊り体験を楽しんだ。

肌寒い季節であったが天候に恵まれ、留学生同士の交流にも一役かった研修旅行であった。

2.2 留学生交流会

留学生交流会を以下の通り実施した。

実施日：令和3年12月14日（火）

場所：大会議室

参加者：留学生（3名）、留学生チュータ、留学生と親交が深い5Eのクラスメイト、留学生委員会を中心とした教職員等 約30名

留学生交流会は、学生課課長補佐の進行で、校長の挨拶に始まり、留学生の自己紹介とプロジェクトを使用した母国の紹介、参加者からの質疑応答の後、学生会代表、寮生会代表、国際交流センター長、5年留学生のクラスメイト、5年留学生のチュータと心のこもったスピーチやユーモアあふれるスピーチがあった。その後、5年留学生の謝辞、5年留学生の指導教員の贈る言葉、留学生委員会委員長の閉会の辞へと続き、記念撮影の後、交流会を終了した。

昨年度と同様、コロナ禍の影響で例年の様な立食形式での開催ができず、寂しかった面もあったが、楽しくかつ意義のある交流の場となった。



留学生の自己紹介と母国の紹介



集合写真

2.3 留学生の地域交流

今年度行った、地域との異文化交流は以下の通りである。

- (a) 東舞鶴高校主催「総合的な探求の時間（国際分野）国際交流会」

令和3年6月21日（月）

参加者：留学生1名

- (b) 舞鶴国際交流協会主催「日本の昔の遊びを通して交流しよう」

令和3年7月10日（土）

参加者：留学生1名

- (c) 本校主催「令和3年度ジュニアドクター育成塾」第9回講座

令和3年11月27日（土）

参加者：留学生3名

3. 令和4年度の受入予定

令和4年度は、モンゴルから国費外国人留学生1名（電気情報工学科）の受け入れが予定されている。

教育改善委員会

教育改善委員会委員長 竹澤 智樹

教育改善委員会は、本校の継続的改善システムを円滑かつ効果的に機能させるための活動を行っている。具体的には、教育プログラム（MDE）委員会および評価委員会でCHECKされた事項についてACTIONを行う役割であり、当委員会が必要と認めるときは、各学科・部門及び他の委員会に提議、付託または協力要請を行うことができる。今年度実施した事項を以下に挙げる。

1. 令和2年度の教育プログラム（MDE）委員会の教育プログラム点検結果について

第1回委員会（令和4年2月4日開催）において、教育プログラム（MDE）委員会で作成された「令和2年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」の記載内容について、項目ごとに審議し、必要な修正を当委員会において行った。「教員間連絡ネットワーク」に関して、教育プログラム（MDE）委員会への追記の依頼や、「教員の教育活動の評価方法」等について当委員会で意見交換を行った。修正された点検結果が、完成版として本校の教職員用グループウェアdesknet's NEOに掲載された。

2. 認証評価の結果による来年度の改善について

令和2年度に受審した大学改革支援・学位授与機構の認証評価において「改善を要する点」として指摘を受けた点について確認を行い、教育改善委員会の役割や指摘事項の改善方法等について昨年度に引き続き検討した。

3. FD・ICT部会の活動

評価委員会に置かれていたFD・ICT部会は、今年度より教育改善委員会の組織となった。当委員会において部会の活動内容を確認した。

F D ・ I C T 部 会

FD・ICT部会部会長 宝利 剛

本部会は、昨年度まで評価委員会の下部組織であったが、今年度より教育改善委員会の下部組織として、主として教員の授業方法、教育指導等の改善に資する目的で、種々の取り組みを行った。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏 名	所 属	主たる役割	氏 名	所 属	主たる役割
宝利 剛	自然科学	全体の連絡調整	石川 一平 ※10月より	電子制御	
山根 秀介	人文科学	非常勤講師の手引きの作成	毛利 聡	建設システム	非常勤講師の手引きの作成
喜友名 朝也	自然科学	非常勤講師の手引きの作成	増永 武夫	総務課	総務課連絡調整
小林 洋平	機械	FD・ICT講演会	山口 秀朗	学生課	学生課連絡調整
中川 重康	電気情報		芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、 連絡調整
丹下 裕	電気情報	教育連絡会議	石井 貴弘	支援センター (協力)	授業アンケート 設定及び集計
藤司 純一 ※9月まで	電子制御				

1. 授業アンケートの結果分析

今年度より、授業アンケートの実施及び回答の集計は資料部会で実施しており、本部会では集計結果を基に、結果分析を実施している。

平成28年度から、他教員のアンケート結果（自由記述等は除く）を含め、本校で開講されている全科目の結果を参考資料として全教員に開示している。これは、自分のアンケート結果だけでなく、他の教員の結果も見られることにより、教員間の議論が促され、学校全体の授業改善に繋がるのではないかと考えるに基づくものである。平成31（令和元）年度からは、前年度の授業アンケートに各教員が記載した「課題分析」と「今後の改善策」に対して、それぞれ自己分析を行い、「前年度からの達成度に関する自己分析」を記載する項目を追加するとともに、「達成度の割合」を数値で記入している。単年度のアンケート結果だけでなく、前年度の課題分析等を反映させた授業改善を行うことで、授業内容を継続的に向上していく仕掛けになることが期待される。

上記に加え、今年度からは学科部門単位でアンケート結果の分析を実施することとなった。具体的には、当該学科部門担当科目（非常勤講師担当科目を含む）の全アンケート結果（自由記述も含む）を共有し、学科部門ごとに、組織的な授業改善の視点から「課題分析」と「今後の改善策」を、前期と後期のそれぞれに検討する。これにより、教員ごとの分析では見えてこなかった課題の発見・改善が期待される。

2. FD・ICT特別講演会

今年度は、LGBT研修を実施した。男女共同参画室を中心に、学生相談室、修学支援室との合同での開催であった。研修では、動画視聴、グループワークにより活発な議論が行われた。LGBTに対する理解を深めるよい機会となった。

3. 授業参観

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、参観回数を1回に限って実施した。参観期間は令和3年6月22日（火）～7月12日（月）の3週間とした。参観教員は参観後1週間以内にFormsから内容を報告し、報告された内容は報告者を匿名としたうえで、授業担当教員にフィードバックした。これにより、参観教員は自身の授業改善に参考になる点について整理するとともに、授業担当教員においても他の教員からの報告内容を確認することで授業改善に繋がることを期待している。また、参観教員からの報告内容のうち、「自分の授業改善に参考になった点」については、報告者を匿名としたうえで、学内で共有し、こちらも授業改善に繋がることを期待している。尚、今年度の実施率は74.5%であり、昨年度の70.4%から4.1%向上した。

4. 教育連絡会議

学科・部門、本科・専攻科の垣根を越えて、科目間の連携を密にし、教育改善に向けた検討を行うことを目的に、令和3年11月18日（木）～11月25日（木）の期間、教員を6つのグループに分け、グループごとに以下のテーマについて討議を行った。

- グループA 学生の成績評価・講義運営
- グループB ICT活用の現状と将来
- グループC 学生指導（SHRの出欠調査・担当者、欠席学生の対応）
- グループD MoodleやTeamsの活用事例と課題
- グループE 学生の時間や心のゆとりについて
- グループF 学生指導（SHRの出欠調査・担当者、欠席学生の対応）、
授業担当教員としての発熱・ワクチン接種による公欠学生の対応

討議後、主査による報告書を本部会で集約し、学内で共有した。これにより、各教員が持っている問題意識や諸問題に対する改善方法・技術・アイデアを共有し、舞鶴高専全体の教育の質向上を目指している。

5. 授業公開

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、学内・学外評価者のみの参観とし、保護者・教職員の参観は行わない方針のもと、令和4年1月11日（火）～1月28日（金）の実施を予定していたが、1月14日（金）の臨時休校、1月17日（月）からの遠隔授業に伴い、すでに実施を終えていた電気情報工学科以外の実施を中止とした。

電気情報工学科については、以下のとおり実施した。

日時	実施教員	授業科目	クラス	学内評価者
令和4年1月13日（木） 8時50分～10時10分	芦澤 恵太	画像工学	専攻科1年 （共通科目）	○船木 英岳 谷川 博哉

※○印は主査を表す。

実施分については、主査から提出された授業公開報告書をもとに、授業担当者から授業改善プラン報告書が本部会に提出された。また、主査から提出された授業公開報告書及び授業担当者から提出された授業改善プラン報告書を本部会で総合的に評価・検討し、評価・検討結果を教職員に通知した。

6. 非常勤講師の手引き

非常勤講師に対する業務支援の目的で、非常勤講師の手引きを作成した。これまで口頭で伝えられていた業務を文書化することで、事務方の業務軽減や業務に関するトラブル防止が期待される。作成した手引きは、令和4年度からの運用を目指し、教務委員会への引き渡しを行った。今後は、教務委員会で運用される。

交通対策検討委員会

交通対策検討委員会委員長 片山 英昭

1. ライフライン再生工事

本年度も昨年度に引き続き、舞鶴工業高等専門学校ライフライン再生工事が行われた。ライフライン再生工事は、構内に敷設された電気・水道・排水等の取り換え工事に伴い、構内道路の掘り返し工事となった。学生および教職員の安全と、教育活動に支障がでないように、総務課施設係とともに調整を図りながら計画を立案したため、大きな問題を生じることがなかった。

2. 構内交通整備

構内における車・バイク・自転車の乗り入れを制限し安全環境を確保している。この車両乗り入れ制限について学生教職員の理解のもと定着が進んでいる。外部者が訪れる学校行事等に伴う構内道路や駐車場の制限などを検討した情報を、総務課からアナウンスしている。引き続き構内交通の安全環境の整備を進めていく。

3. 駐車場および駐輪場の整備

学生駐車場の第1駐車場に入場する車と駐輪場に入場するバイクの経路が交差しているため自動車とバイクとの接触及び衝突や、バスを降り校舎に向かう学生が第1駐車場内を歩くため学生と入場してきた車との接触の懸念がある。これらを防ぐための安全対策の1つとして、第1駐車場の入り口に「減速帯」を設置した。今後は、自転車で登校する学生が安全に登校できることも踏まえ、駐輪場の位置の変更を検討していきたい。



安全衛生委員会

安全衛生委員会委員長 事務部長 佐良 俊久

本委員会は、教職員の安全管理及び衛生管理の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校安全衛生管理実施規程 第11条）に設置されており、教職員の安全衛生管理に関する重要な事項について調査、審議を行っている。今年度の委員会構成は以下のとおりである。

表1 令和3年度安全衛生委員会構成

職 名	氏 名	任 期	備 考
事務部長	佐良 俊久		一号委員：委員長
医 師	西村 正人		二号委員：産業医
技 術 長	福井 繁雄		三号委員：衛生管理者・副委員長
総務課長	増永 武夫		四号委員：安全管理者、五号委員
看 護 師	清水智苗美		六号委員
教 授	田村 修一	R3. 4. 1～R4. 3. 31	七号委員：人文科学部門
教 授	山田耕一郎	R3. 4. 1～R4. 3. 31	七号委員：機械工学科
准 教 授	高木 太郎	R3. 4. 1～R4. 3. 31	七号委員：電子制御工学科
技術専門職員	西村 良平	R3. 4. 1～R4. 3. 31	七号委員：教育研究支援センター
総務課専門職員	中嶋 智範		オブザーバー
総務課施設係長	岩見 遼平		オブザーバー

1. 定期巡視の実施

委員（産業医、オブザーバーを除く）8名を4班に分け、例示されたチェックポイントを目安に、学内の定期巡視（毎週1回）を実施した。具体的には、学内をA～Eの5地区に分けて、各班が順に各地区を担当するように計画した。巡視結果は委員会事務局に報告され、定例委員会で審議された。

2. 定例委員会の開催

毎月1回定例の委員会を開催することを基本とし、各班からの巡視結果について審議した。審議結果は、昨年度に引き続き、保留、連絡（調査）、連絡（対策）の三つに分けて対応した。「連絡」と判断された事項については、該当部署または該当教職員に通知した。「保留」は学校としての対応が必要と判断した事項で、施設係を中心に検討していただいた。また、定例委員会では毎回、西村産業医より、本校における健康管理および健康の保持増進に関するコメントをいただいた。

3. 安全衛生環境の改善

定例委員会で審議された事項について、当該部署や事務部へ連絡・調整を行った。これにより、安全衛生環境が改善された。なお改善にあたっては、令和元年度から導入した巡視における安全衛生に関するリスクの定量化（リスクアセスメント）を継続して行い、高リスクと思われる事項から優先的に対策を実施した。

4. ストレスチェックの実施

本校教職員を対象にストレスチェックを実施し、約87%の教職員が受検した。京都大学 名誉教授・非常勤研究員 労働衛生コンサルタント・川村 孝教授の協力を得て、本人申し出に基づく面接指導も行われた。

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ座長 川田 昌克

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループは、危機管理委員会の下部組織として、緊急連絡／安否確認システムの管理・運用およびシステムを用いた訓練を継続的に行っている。今年度の本ワーキンググループの構成員を表1に示す。

表1 ワーキンググループ構成員

川田 昌克	教務主事	伊藤 稔	学術情報センター長
増永 武夫	総務課長	山口 秀朗	学生課長
福井 繁雄	教育研究支援センター	能勢 嘉朗	教育研究支援センター

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響のため、全学的な避難訓練の実施を見送ったため、1年生を対象とした避難訓練の実施日とは別の日（令和3年12月20日）に安否確認訓練を実施した。訓練は以下の手順で行った。

- 事前に、担任及び専攻科コース長は、クラスルームなどに掲示している「令和3年度 緊急連絡/安否確認システムの安否確認訓練について」をクラス学生に周知する。教職員に対してはメールで周知する。
- 令和3年12月20日（月）11時45分に、危機管理副委員長（教務主事）は危機管理委員長（校長）名で、運用管理者（学生課長）に危機管理対策本部（今年度は中会議室）を設置し安否確認を行うよう指示する。
- 学生課長は、教務係長に本システムを利用して学生及び教職員に安否確認を行うよう指示する。
- 教務係長は学生及び教職員に以下の内容のメールを送信する。

こちらは舞鶴高専危機管理委員会です。
 安否確認訓練のため、本メールを送信しています。
 質問1は自分の状況、質問2は自分の居場所を回答してください。
 それぞれ1文字を返信メールの本文1行目に入力・送信してください。（返信例：あ）
 なお、本メールタイトル内の「英数字」は管理番号ですので、返信時、タイトル（「R E :」を含む）を絶対に編集・削除しないでください。
 あ：無事 か：怪我
 質問2
 さ：学内 た：学寮 な：自宅 は：その他
 質問1で「か」を選んだ人は怪我の状況を、質問2で「は」を選んだ人は自分の居場所を本文2行目以降に入力してください。

WEB 回答 URL(ケータイ用とスマホ用があります)
 (ケータイの方はこちら)
 **** URL 省略 ****
 (スマホの方はこちら)
 **** URL 省略 ****

- 学生は、学生用 Gmail アドレスまたは事前に登録した携帯メールアドレスから安否確認の返信をする。
- 教職員は、学校のメールアドレスまたは事前に登録した携帯メールアドレスから安否確認の返信をする。
- 訓練終了後（メール送信から1時間後）、システム管理担当者（能勢）は学生の安否確認情報を集約し、学生課長に報告する。

- 学生課長は、学生の安否確認情報を危機管理委員長（校長）、危機管理副委員長（教務主事）、事務部長及び総務課長に報告する。
- 危機管理副委員長は、学生の安否確認情報を学生主事、寮務主事及び専攻科長に連絡する。
- 危機管理副委員長は、安否確認訓練が終了したこと及びその結果を担当及び専攻科コース長に連絡する。

なお、安否確認訓練の開始時間を令和2年度は授業終了直後としていたが、令和3年度は昼休み開始直後とした。表2～4に安否確認の返信率を示す。

表2 安否確認の返信率（学生）

(a) 令和3年度

令和3年12月20日17時00分		令和3年12月21日10時00分	
本科1年	90.1%	本科1年	94.7%
本科2年	84.8%	本科2年	92.7%
本科3年	75.2%	本科3年	80.0%
本科4年	73.4%	本科4年	81.2%
本科5年	71.5%	本科5年	74.2%
専攻科	76.1%	専攻科	80.4%
学生全体	78.8%	学生全体	84.4%

(b) 令和2年度

令和3年1月26日17時10分		令和3年1月27日9時00分	
本科1年	68.7%	本科1年	96.4%
本科2年	73.7%	本科2年	95.8%
本科3年	56.5%	本科3年	82.4%
本科4年	70.1%	本科4年	89.8%
本科5年	69.4%	本科5年	91.0%
専攻科	69.8%	専攻科	97.7%
学生全体	67.6%	学生全体	91.4%

表3 安否確認の返信率（教職員）

(a) 令和3年度

令和3年12月20日17時00分		令和3年12月21日10時00分	
教員	96.4%	教員	98.2%
職員	73.8%	職員	76.2%
非常勤講師	40.0%	非常勤講師	43.3%
教職員全体	74.4%	教職員全体	76.7%

(b) 令和2年度

令和3年1月26日17時10分		令和3年1月27日9時00分	
教員	86.2%	教員	96.6%
職員	57.5%	職員	77.5%
非常勤講師	36.0%	非常勤講師	48.0%
教職員全体	64.2%	教職員全体	81.2%

最終的な学生の返信率は令和2年度が過去5年間で最も高かったが、令和3年度は元の水準に下がった。この要因のひとつは、訓練開始時間の変更や実施した曜日を変更したためであると考えられる。令

和2年度は本科5年生や専攻科生が研究科目の実施日である火曜日であったため、該当学年の返信率が高かったが、令和3年度は月曜日の実施であったため、返信率が低かった。もうひとつの要因としては、特定のクラスの返信率が低かったことが考えられる。該当クラスでは、各種アンケートの回答率が総じて低く、今回の訓練でも同様の結果となった。学級担任を中心としたクラス運営を改善することが必要である。

教員や教育研究支援センター職員の返信率は令和2年度と同様、極めて高い。それに対して、その他の職員や非常勤講師の返信率は低く、引き続き改善が必要である。

また、メールを返信した学生701名のうち1名(0.14%)が、教職員133名のうち1名(0.75%)が質問1もしくは質問2の回答がなかった。本システムの返信内容は2文字のひらがなからなる単純なものであるため、誤回答の数が限定的であることが確認できた。

表4 安否確認の返信率の推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生全体	76.5%	86.7%	87.3%	91.4%	84.4%
教職員全体	83.0%	81.7%	66.5%	81.2%	76.7%
全体	77.6%	85.9%	83.9%	89.7%	84.7%

男女共同参画室

男女共同参画室長 上杉 智子
男女共同参画副室長 村上 信太郎

1. 男女共同参画室の概要

男女共同参画室は、高専機構男女共同参画行動計画に基づき、男女共同参画を推進することを目的に、令和元年度より新設された組織です。教育・研究・就業活動全般を通じた男女共同参画の推進と意識啓発を行うことを主な目的としています。また、令和元年度より新設された女子学生グループ「うろうろ」の後援・活動支援も行っています。

2. 令和3年度の活動

2.1 男女共同参画室運営会議の開催

- 第1回男女共同参画室運営会議（令和3年4月2日）
 - (1) 実施体制 (2) 基本方針 (3) 昨年度の活動について
 - (4) 令和2年度第3ブロック男女共同参画推進協議会 (5) 令和3年度活動計画
- 第2回男女共同参画室運営会議（令和3年6月3日）
 - (1) 高専女子フォーラム in 関西について (2) 教職員対象のLGBT研修について
 - (3) 教員職のインターンシップ候補・女子学生向け講演候補について
 - (4) 女子学生グループ「うろうろ」活動報告
 - (5) 全国ダイバーシティネットワーク近畿ブロック会議について
- 第3回男女共同参画室運営会議（令和3年10月11日）
 - (1) 室員・役割分担の変更について
 - (2) 高専女子フォーラム in 関西について
 - (3) 教職員インターンシップ・女子学生向け講演の実施について
 - (4) 予算案について
- 第4回男女共同参画室運営会議（令和4年1月27日）
 - (1) 近畿女子学生交流会について
 - (2) 全国ダイバーシティネットワーク近畿ブロック会議について
 - (3) 第3ブロック男女共同参画推進協議会について
 - (4) 予算執行計画について (5) 高専女子フォーラム in 関西の振り返り

2.2 LGBT研修の実施

令和3年6月23日（水）、視聴覚教室において、学生相談室、修学支援室、FD・ICT部会との共催による、教職員を対象としたLGBT研修を実施しました。LGBTに関する研修は、本校では初めての実施となります。研修では、認定特定非営利活動法人「ReBit」が無償配布を行っている動画を視聴しながらグループワークを行いました。また、本校学生に関する情報共有も行いました。研修には教職員51名（教員35名、職員16名）が参加しました。



校長挨拶



グループワークの様子



グループワークの様子

2.3 高専女子フォーラム in 関西への参加

12月19日（日）、近畿地区の高等専門学校7校の主催（代表幹事校：奈良工業高等専門学校）による高専女子フォーラム in 関西がオンラインで開催されました。高専女子フォーラム in 関西は、女子学生のキャリア教育を主な目的としており、参加企業の男女共同参画に関する取組について知ると共に、高専女子学生が、企業関係者や中学生および保護者に向けて、研究紹介、学生生活紹介、高専教育紹介を行うことで、高専女子学生の実力を広く社会に向けて発信することも目指しています。

今年度の実施形態は、発表動画とオンラインでの質疑応答による発表で、本校からは、4学科の学生達が、それぞれ1件ずつ（機械工学科：寮生活・学生生活の紹介、電気情報工学科：女子学生グループの活動紹介、電子制御工学科・建設システム工学科：専門教育紹介）の発表を行いました。



機械工学科



電気情報工学科



電子制御工学科



建設システム工学科

2.4 学内設備の改善

学生と教職員が快適に過ごすための設備の見直しとして、男女共同参画室の予算を利用して、稼働率の高い女子トイレ内のペーパーホルダーを棚付きのものに交換しました。また、トイレ個室の扉のフック、流水音発生器についても一部交換を行いました。さらに、窓が無く、狭くて暗い印象があった一階女子トイレの床シートを、汚れにくく明るい色の素材に張り替えを行いました。

2.5 女子学生グループ「うろうろ」の活動

女子学生グループ「うろうろ」が本校の公認団体となり、男女共同参画室が活動の支援を行うことになってから3年目となる今年度は、入試広報に関連したリーフレット発行、入試広報イベントへの参加、高専祭での活動紹介と缶バッジ作製、企業へのOG訪問など、コロナ禍にも関わらず、活発に活動を行いました。また、今年度は男女共同参画室の予算を利用して、新たに活動用のオリジナルウィンドブレーカーを作成しました。今後も、他高専との連携、地域との連携などの、幅広い活躍が期待されています。

3. 男女共同参画室が参加したその他の行事・会議等 [連携機関等]

令和3年：

- ・ 5月11日（火） 高専女子フォーラム in 関西 第1回実行員会（オンライン開催）
- ・ 6月29日（火） 全国ダイバーシティネットワーク組織令和3年度第1回近畿ブロック会議
実務者間ネットワーク（オンライン開催）
- ・ 8月27日（金） 高専女子フォーラム in 関西 第2回実行員会（オンライン開催）
- ・ 9月24日（金） 高専女子フォーラム in 関西 第3回実行員会（オンライン開催）
- ・ 10月 3日（日） 女子中学生1日高専体験会
- ・ 10月22日（金） 高専女子フォーラム in 関西 第4回実行員会（オンライン開催）

令和4年：

- ・ 2月22日（火） 全国ダイバーシティネットワーク組織令和3年度第2回近畿ブロック会議
令和3年度の活動報告（オンライン開催）
- ・ 3月 3日（木） 国立高等専門学校機構 令和3年度女性教員管理職育成研修（オンライン開催）
- ・ 3月10日（木） 男女共同参画推進に係る講演会 [奈良高専]（オンライン開催）
「理系女性研究者のキャリア形成と支援」講師：同志社大学 藤本哲史氏
- ・ 3月23日（水） 高専女子フォーラム in 関西 第5回実行員会（オンライン開催）

施設マネジメント委員会

施設マネジメント委員会委員長 小野 伸一郎

1. 施設マネジメント委員会の概要

本委員会は、時勢により変わる施設利用状況に対し施設利用・利便性の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校施設マネジメント委員会規程 第3条）に設置されており、施設の活用状況の調査、各部門への施設アンケート、大型改修の計画を行っている。

2. 令和3年度の活動

○第1回施設マネジメント委員会

- (1) 実施体制 (2) 令和3年度大型改修概要説明 (3) 令和4年度大型改修の要求について
(4) 学生アンケート結果について (5) A325研究室分割工事について (6) 5箇年計画について

○第2回施設マネジメント委員会

- (1) A325研究室分割工事スケジュール案について (2) A304, A306, A322, A324の用途変更について

○第3回施設マネジメント委員会

- (1) 令和5年度大型改修の要求について (2) 令和4年度営繕事業の要求について
(3) 学生主導による営繕事業要求について

○第4回施設マネジメント委員会

- (1) 令和4年度営繕事業の要求について

○第5回施設マネジメント委員会

- (1) 令和4年度大型改修の補正予算公示結果による令和5年度大型改修の見直しについて
(2) 寄宿舍5号館改修案について (3) 電気使用量傾向と今後の改修方針について

○第6回施設マネジメント委員会

- (1) A324の用途確定について
(2) 学生昇降口改修に関する仕様選定について

3. 活動結果

○令和4年度大型改修

施設利用状況及び老朽状態より学生寮5号館(西)及び情報科学センターを改修することとなった。
工事期間中の学校運営について審議された。

○A325研究室分割工事

一部の教員研究室が学生の研究室と同一スペースになっている状態を解消するため、A325研究室を4部屋に分割することでセキュリティ向上を行った。

○令和5年度大型改修

施設利用状況・施設老朽状況に基づき令和5年度大型改修計画が協議された。

○学生要望について

22件（種類）の要望があり内8件について施設マネジメント委員会にて協議。内1件（開放センターの水道復旧）については令和3年度中に対応。内2件については令和4年度中に対応する予定で今後協議することとなった。

入学前ICT教育ワーキンググループ

入学前ICT教育WG座長 奥村 昌司

1. 入学前ICT教育について

令和4年度本科入学試験から、特別選抜に地域枠が新設されたことに伴い、入学予定者を対象とした入学前ICT教育を実施することになりました。その実施に向けて令和3年8月に入学前ICT教育WGが発足しました。入学前ICTは入学予定者が「高専での学習に向けた準備」と「入学後に利用するICTに慣れる」を目的として、入学前ICT授業として実施しました。

2. 入学前ICT教育WGの委員

氏名	所属
奥村 昌司	自然科学部門
大内 真一郎	人文科学部門
宝利 剛	自然科学部門
山本 昌平	機械工学科
内海 淳志	電気情報工学科
西 佑介	電子制御工学科
加登 文学	建設システム工学科

3. 入学前ICT授業の実施

入学前ICT授業は新設されたMoodleを用いて、以下の内容を、Zoom授業やオンデマンド動画視聴の後に1週間程度の締め切りで課題に取り組む形で実施しました。

- 第1回（1月19日（水））校長祝辞，説明と諸注意など
- 第2回（1月26日（水））【テーマ：理科】
在校生（学生会，寮生会）からのメッセージ
- 第3回（2月2日（水））【テーマ：アイデアの出し方】
- 第4回（2月9日（水））【テーマ：電気エネルギー】
- 第5回（2月16日（水））【テーマ：電子制御】
クラブ・同好会の紹介 【学生により制作された動画や文書】
- 第6回（2月24日（木））【テーマ：建設】
- 第7回（3月6日（日））【テーマ：英語】
- 第8回（3月17日（木））【Zoomを利用して，各学科の在學生と交流】

特別選抜の合格者は，合格通知に同封した資料に基づいて第1回から参加し，一般学力選抜による入学予定者は第7回の授業から参加しました。参加できなかった授業については，Moodle上に掲載された動画や資料を閲覧し，締め切りを過ぎていても課題が提出できるように設定しました。参加した入学予定者からは好意的な反応が多くみられました。

舞鶴高専ジュニアドクター育成塾

実施主担当者 上杉 智子

1. ジュニアドクター育成塾について

ジュニアドクター育成塾は、科学技術振興機構（JST）が行う理系の次世代人材育成事業の一つで、理系の優れた能力を秘めた児童・生徒を発掘し、その能力を育てることを目的としています。本校は、平成31（令和元）年度より「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」という企画名でこの事業に採択され、取り組みを行っています。3年目となる今年度も、京都・滋賀・兵庫・福井の小中学生を対象として、科学技術との触れ合いや高度な研究課題への取り組みの機会を提供するための活動を行いました。

2. 実施組織

昨年度に引き続き、学内の実施組織「ジュニアドクター育成塾推進会議」の構成員を中心として企画を行い、全学的なサポートのもとで取り組みを実施しました。

令和3年度 ジュニアドクター育成塾推進会議 構成員

役割名	担当構成員
実施責任者	校長
実施主担当者	上杉智子
実施担当者	宝利剛，谷川博哉，内海淳志，石川一平，加登文学
事務局	事務部長，総務課

3. 育成プログラム

育成プログラムは二段階に分かれています。毎年、受講生の応募を行い、応募者から約40名の受講生を選抜して、受講1年目に第一段階の育成プログラムを実施します。第一段階の取り組みを修了した受講生のうち、特に優秀な受講生を選抜して、受講2年目より第二段階プログラムを実施します。取り組み3年目となる今年度は、第一期生・第二期生に対する第二段階の育成プログラムと、第三期生に対する第一段階の育成プログラムを並行して行いました。

《第一段階育成プログラム》

令和3年度の受講生募集では63名の応募があり、43名の受講生を第三期生として選抜しました。この受講生を対象に、理学・工学の様々な分野について学習するための取り組みを行い、成果発表会を実施しました。今年度は京都府の緊急事態宣言発令により、全11回のうち2回の講座をオンラインで行いました。

(1) 基礎講座（7月31日，9月4日・18日）

対面での講座1回，オンライン講座2回

入塾式を行った後，3回にわたって，木製ノギスや分光器の作製など，簡単な工作を通じた測定値の扱い・有効数字・物理量の測定についての学習や，プログラミングについて学習する基礎講座を実施しました。



基礎講座（木製ノギスの作製）

(2) 課題学習（10月2日・16日・23日，11月7日） 対面での講座

受講生が2つのコース（Aコース：設計，ロボット／Bコース：AI・IoT，建築）に分かれて行う課題解決型学習を，前半2回・後半2回の全4回行いました。



課題学習（設計）



課題学習（AI・IoT）



課題学習（ロボット）



課題学習（建築）

(3) 研究者倫理・総合的学習 (11月20日) 対面での講座

金山光一舞鶴高専名誉教授による研究者倫理についての講義の後、「防災」をテーマに放射線の基礎と原子力防災について学ぶ総合的学習を実施しました。



総合的学習 (防災)

(4) 総合的学習 (11月27日) 対面での講座

本校に在学中のモンゴルとマレーシアからの留学生による母国の紹介と交流の後、「エネルギー」をテーマとして、熱エネルギーと力学的エネルギーの変換について学ぶ総合的学習を実施しました。



留学生による母国紹介



総合的学習 (エネルギー)

(5) 特別講義 (12月5日) 対面での講座

九州大学 山本薫准教授による招待講演「ロボットやドローンの制御と自動操縦」の後、成果発表用ポスターの作成を行いました。招待講演には、過年度の第一段階修了生18名 (うち第二段階受講生9名) も参加しました。



招待講演

(6) 成果発表会・修了式 (12月18日) 対面での開催

舞鶴市商工観光センターのコンベンションホールにおいて、第一段階での学習の成果発表会を開催し、第一段階受講生32名がスライドによる発表を行いました。成果発表後は第一段階教育プログラムの修了式を行い、発表を行った受講生達に修了証書を授与しました。



成果発表会



修了式



修了生

《第二段階育成プログラム》

令和3年度の第二段階受講生は、前年度から継続して参加する6名と、令和1・2年度の第一段階修了生の中から新たに選抜した15名の計21名に対し、8つの研究テーマで月2回程度指導を行いました。(対面講座・オンライン講座の両方を取り入れて実施。)

成果発表の機会としては、11月に開催された、全国の実施機関から受講生が参加するサイエンスカンファレンス2021 (オンライン開催) に、研究発表会・交流会に2名の受講生が参加しました。

また、令和4年3月26日には第二段階受講生の成果発表の場として、舞鶴市商工観光センターのコンベンションホールで令和3年度研究フォーラムを開催し、令和3年度の第二段階受講生20名が成果発表を行いました。



研究発表会の様子

4. 本取り組みによる学生の教育

ジュニアドクター育成塾の取り組みでは、受講生のサポートを行う本校の学生達に対し、メンターの役割を担うためのスキルを育成することも目的としています。そのために、令和3年度は次のような取り組みを行いました。

(1) 学生メンターの研修 (7月8日)

京都教育大学大学院 片山紀子教授を講師としてお迎えし、「コーチングを活用できるメンターになろう」という題目で学生メンターの研修をオンラインで行いました。

また、取り組み期間全体を通して、各講座の前後に、シニアメンター (本校教員) が学生メンターを集めて受講生指導に関するミーティングを実施し、学生のコーチングスキルの育成を図りました。

(2) 教育アドバイザーの雇用

昨年度までに引き続き、教育アドバイザーとして、元中学校教員の後野文雄先生、橋本茂先生をお迎えし、本校教員と共に学生メンターの指導をして頂きました。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

文部科学省が「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」として実施する「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、舞鶴工業高等専門学校が申請代表校となった『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』が、中核拠点の取組みとして選定されました。

本事業は、舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターが中心となり、建設技術者が働きながら学びを続けるための環境整備や、職業能力の向上とキャリア・アップに繋がる教育プログラムの構築等、社会人のための学び（リカレント教育システム）を設計するもので、産学と地域が連携してインフラメンテナンスのリカレント教育推進のための産学連携コンソーシアムを形成し、『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』を行う事業です。

本事業は、令和元年度から5カ年で実施しており、産学+地域による連携体制としてREIM産学連携コンソーシアムを設立し、リカレント教育拠点整備、リカレント教育プログラムの開発・実施、実務家教育育成研修プログラムの開発に取り組んできました。本年度は、開発した各種プログラムの実証・検証、連携高専でのプログラム試行、新規技術資格『橋梁診断技術者』の創設を行いました。今後、令和4年度には実務家教育育成実施とリカレント教育プログラムの全国展開に向けた連携高専での講座を開催し、令和5年度にはリカレント教育プログラムの全国展開とKOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの確立に向けた取組みを行います。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

少子高齢化・労働人口減少
社会基盤（インフラ）高齢化

インフラ
（橋梁）

- 全国の橋梁ストックは約72万橋（国道3割、市町村道7割）
- このうち、建設後50年以上経過した橋梁が10年後には5割超
- 町の3割、村の6割で橋梁保全業務に携わる土木技術者不在

安全・機能確保対策の必要性大
維持管理・修繕等の需要が増大

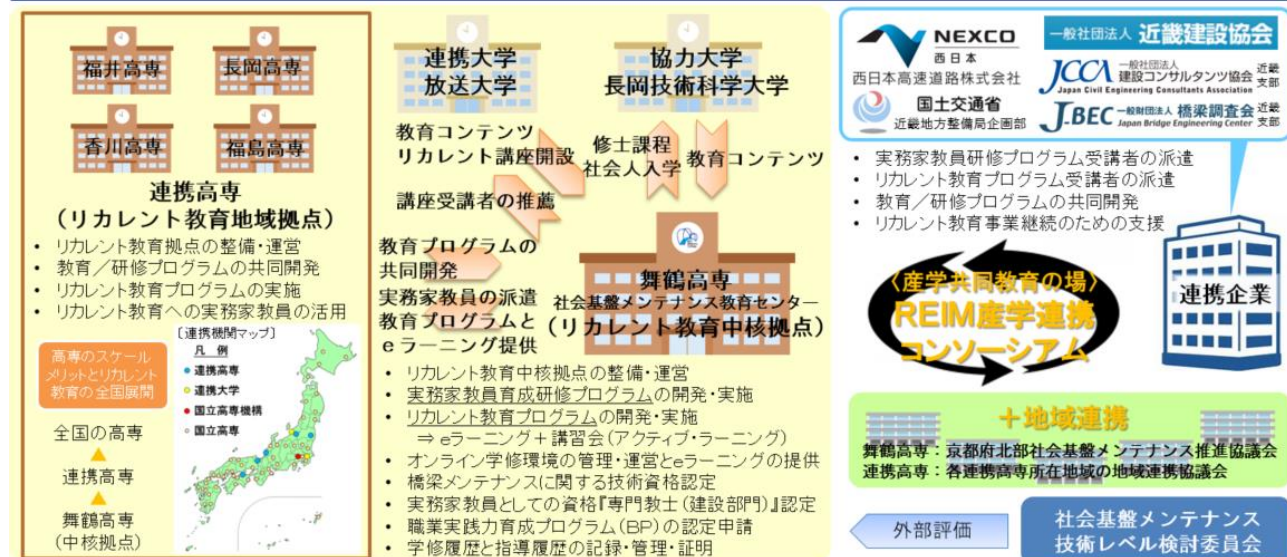
課題・問題

- 地方では高等教育を受けた技術者が非常に少ない
- インフラメンテナンス分野の実務経験・実務能力が乏しい
- 建設技術者のICTスキルが不十分で建設現場の生産性が低い

Society5.0を牽引するインフラメンテナンス人材
を育成するためのリカレント教育が急務



- 実務家教育育成研修プログラムを開発・実施し、産学連携でリカレント教育プログラムの講師を育成
- 若手建設技術者を主な対象とし、職務を離れることなく受講可能なリカレント教育プログラムを開発・実施
- 全国5カ所のリカレント教育拠点到育成した実務家教育員を派遣し、リカレント教育プログラムを全国展開



学科・部門別教員一覧 (令和4年3月現在)

人文科学部門

氏 名	職名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
田村 修一 (博士〔文学〕)	教授	・ 人文科学部門長	①現代文A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③日本語A, B, E, F ④日本文化論	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史
藤田 憲司 (修士〔文学〕)	教授	・ 国際交流センタ ー長 ・ 学生主事補	①総合英語ⅠA, ⅠB,ⅢA,ⅢB, ⅣB,ⅤA ②現代英語Ⅱ ③工業英語	英文学	①18世紀イギリス詩 ②批評理論
児玉 圭司 (修士〔法学〕)	教授	・ 学級担任(2-2) ・ 学生相談室長 ・ 寮務主事補	①法学 ②経済学 ③現代日本の政 治・経済と法 Ⅰ,Ⅱ ④技術者倫理	法制史 (日本近代)	①行刑(監獄制度)史 ②刑事法・刑事政策 史
牧野 雅司 (博士〔文学〕)	准教授	・ 修学支援室長 ・ 学生主事補	①歴史総合A ②公共A, B ③地域学Ⅰ,Ⅱ ④防災リテラシー	日本近代史 対外関係史	①幕末維新期の日朝 関係 ②地域史料の保存と 活用
山根 秀介 (博士〔文学〕)	准教授	・ 教務主事補 ・ 学級担任(1-1)	①総合英語ⅠA,ⅠB, ⅢA,ⅢB ②現代英語Ⅰ ③現代社会と宗教 Ⅰ,Ⅱ	近代哲学	①ウィリアム・ジェ イムズ ②現代フランス哲学
荻田 みどり (博士〔文学〕)	講師	・ 学級担任(1-3) ・ 寮務主事補	①古典A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③国語国文Ⅰ,Ⅱ	中古文学 (平安時代の 文学)	源氏物語の食事描写
大内 真一郎 (修士〔文学〕)	講師	・ 学級担任(2-4)	①総合英語ⅡA, ⅡB,ⅢA,ⅢB, ⅣB,ⅤA ②技術英語 ③工業英語 ④Oral English	アメリカ小説	①リチャード・パワ ーズ ②物語論 (ナラトロジー)
平尾 恵美 (修士〔文学〕)	講師		①総合英語ⅡA, ⅡB,ⅢA,ⅢB, ⅣB,ⅤA,	英語学 言語学	①insubordination ②言いさし文 ③感情表出表現

氏 名	職名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
Jimmy Aames (博士〔人間科学〕)	助教		①総合英語ⅣA, V B ②英会話A, B ③Oral English	アメリカ哲学 科学哲学	①チャールズ・S・パ ース ②物理学の哲学
岡下 朋世 (学士〔人文科学〕)	助教			言語学 (音声学)	①言語のリズム ②英語教育

自然科学部門

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小野 伸一郎 (学士〔教育学〕)	教授	・総務担当副校長 ・入試広報部会副会長	保健体育Ⅰ,Ⅳ,Ⅴ	①運動生理学 ②運動方法学	①運動制御に対する呼吸・代謝と不安心理 ②身体活動と健康
奥村 昌司 (博士〔理学〕)	教授	・自然科学部門長 ・評価委員長 ・1年学年主任	①微分積分ⅡA,ⅡB ②応用数学ⅡA,ⅡB	①非線形方程式 ②微分幾何学 ③数理物理	自己双対方程式のパネル解析
上杉 智子 (博士〔理学〕)	教授	・学生主事補 ・学級担任(2-3)	①物理ⅡA,ⅡB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④近代物理学 ⑤防災リテラシー	①素粒子論 ②初期宇宙論	①宇宙論的相転移の解明 ②宇宙磁場,物質の起源
岡田 浩嗣 (博士〔理学〕)	准教授	・学生主事補 ・進路指導委員会副委員長(進学) ・学級担任(2-2)	①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③微分積分ⅠA,ⅠB	①微分方程式 ②力学系 ③特異摂動論	①反応拡散系における内部遷移層と界面のダイナミクス ②特異摂動法の非局所方程式への応用
木村 健二 (修士〔体育学〕)	准教授	・寮務主事補	保健体育Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ	①スポーツバイオメカニクス ②トレーニング科学	素早く移動方向を変更させるためのストラテジーに関する研究
宝利 剛 (博士〔理学〕)	准教授	・教務主事補 ・FD・ICT部会長 ・資料部会長	①物理ⅠA,ⅠB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④近代物理学	①相対論	ブラックホール時空の数理
小島 広孝 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(1-4)	①化学ⅠA,ⅠB ②化学ⅡA,ⅡB	①分子科学 ②計算化学 ③有機合成	有機材料の分子シミュレーション
喜友名 朝也 (博士〔数理学〕)	講師	・学級担任(1-2)	①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③微分積分ⅠA,ⅠB	①整数論	①保型形式環 ②保型微分方程式
熊谷 大雅 (博士〔理学〕)	助教		①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③応用数学ⅠA,ⅠB	①非線形偏微分方程式論	粘性解理論を用いた完全非線形偏微分方程式の数学解析
背戸柳 実 (修士〔理学〕)	嘱託教授		①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③微分積分Ⅱ,Ⅲ ④応用数学ⅠA,ⅠB	①微分代数 ②p進解析	①常微分方程式のLiouville 解 ②冪級数解のp進収束半径

機械工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
西山 等 (博士〔工学〕)	教授	・ 機械工学科長	①工作実習Ⅰ ②流れ学Ⅰ,Ⅱ ③機械工学実験Ⅱ ④知能機械工学 ⑤医工学 ⑥計算機援用工学 ⑦制御工学Ⅰ ⑧卒業研究	①流体力学 ②生体力学	①エアリフトポンプに関する研究 ②生物模倣工学に関する研究
篠原 正浩 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任(4M)	①機械設計法Ⅰ ②工作実習Ⅱ ③材料力学ⅡA,ⅡB ④機械工学実験Ⅱ ⑤材料力学Ⅲ ⑥設計工学 ⑦卒業研究 ⑧材料力学特論Ⅰ ⑨材料力学特論Ⅱ ⑩特別実験 ⑪エンジニアリング・デザイン演習	①材料力学 ②複合材料工学	①自己融着による炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の接合について ②局所加熱を利用した炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工
谷川 博哉 (博士〔工学〕)	教授	・ 教育研究支援センター長 ・ 学級担任(5M)	①入門機械実習 ②材料力学ⅠA,ⅠB ③機械工学実験Ⅰ ④創造設計製作 ⑤設計製図Ⅳ ⑥卒業研究 ⑦流体力学 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	流体力学	①振動重力場における流体の挙動 ②集風体に関する研究
豊田 香 (博士〔工学〕)	教授	・ 寮務主事	①設計製図Ⅱ ②熱力学Ⅰ,Ⅱ(4M) ③熱力学Ⅱ(4S) ④熱工学 ⑤特別研究	①エネルギー工学	膜沸騰熱伝達の研究
山田 耕一郎 (博士〔工学〕)	教授		①入門機械実習 ②機械工作法Ⅰ ③工作実習Ⅱ ④創造設計製作 ⑤機械力学Ⅰ,Ⅱ ⑥加工学Ⅲ ⑦機械工学実験Ⅱ ⑧設計製図Ⅲ ⑨卒業研究 ⑩特別研究基礎	①計算力学 ②材料力学	①ねじの疲労試験 ②異種金属カシメ結合の微小硬さ

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小林 洋平 (博士〔工学〕)	准教授		①設計製図Ⅰ ②計測概論 ③マリンエンジニアリング ④機械工学実験Ⅰ ⑤機械工学実験Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦エネルギー工学 ⑧エネルギー環境学 ⑨プラント工学 ⑩特別実験 ⑪特別演習	熱流体工学	①液体ナトリウムの濡れ性に関する研究 ②廃炉ロボットの研究
室巻 孝郎 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科機械制御システム工学コース長 ・教務主事補	①機械工学実験Ⅱ ②情報処理Ⅱ ③設計製図Ⅲ ④ものづくり演習 ⑤システム工学 ⑥電気工学Ⅰ,Ⅱ ⑦制御工学Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨システム設計学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別演習 ⑫動的設計論	①数値最適化 ②システム工学	①FA機器の開発 ②福祉機器の開発
村上 信太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・寮務主事補 ・学級担任(3M)	①機械工学実験Ⅰ ②設計製図ⅡA,ⅡB ③情報処理Ⅰ ④工学基礎演習 ⑤工業力学Ⅰ ⑥工業力学Ⅱ ⑦流体工学 ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩特別研究	①熱流体工学 ②数値流体力学	マイクロスケール圧縮性流れの流動・伝熱
山本 昌平 (博士〔工学〕)	助教		①機械工学実験Ⅰ ②設計製図Ⅱ ③計測工学演習 ④機械設計法Ⅱ ⑤ものづくり演習 ⑥卒業研究	①熱流体工学 ②燃焼工学	燃焼により生成される有害排気物質の低減

電気情報工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
片山 英昭 (博士〔工学〕)	教授	・ 学生主事	①情報理論 ②工学基礎研究 ③過渡現象論 ④電気情報工学実験ⅣA, ⅣB ⑤卒業研究 ⑥情報工学 ⑦特別研究基礎 ⑧特別研究	①情報システム工学 ②視覚情報処理	・ 視覚障害者用歩行支援システムに関する研究 ・ 希少画像を用いた不良品検出に関する研究
竹澤 智樹 (博士〔理学〕)	教授	・ 教育改善委員会委員長	①交流回路Ⅱ ②電気情報工学実験ⅡA・ⅡB ③アナログ回路 ④電気磁気学Ⅱ・Ⅲ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦電磁気計測 ⑧卒業研究	物性物理学	第一原理電子状態計算による物性評価 ・ 物質設計 ・ 超伝導 (Pd, Fe) ・ 高圧物性 (水素)
内海 淳志 (博士〔工学〕)	教授	・ 電気情報工学科長	①電気基礎 ②電気回路 ③専門AL (1E) ④電子工学Ⅰ, Ⅱ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦半導体工学 ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩電磁気応用工学 ⑪電子デバイス工学 ⑫特別研究基礎 ⑬特別研究	①光電子工学 ②半導体工学	①近接場光応用技術の開発 ②電子デバイス教材の開発
芦澤 恵太 (博士〔理学〕)	教授	・ 進路指導委員会委員長 ・ 寮務副主事	①情報基礎 ②アナログ信号処理 ③プログラミング実習 ④電気情報工学実験ⅡA, ⅡB ⑤通信工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別演習 ⑨画像工学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	①画像処理 ②数値調和解析	①画像圧縮アルゴリズムの開発 ②ギブス現象軽減に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
船木 英岳 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(3E) ・学術情報副センター長	①メディアリテラシー ②ネットワーク論Ⅰ,Ⅱ ③電気情報工学実験ⅢA,ⅢB ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥オペレーティングシステムⅠ,Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧ネットワークシステム論 ⑨エンジニアリングデザイン演習 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	情報システム工学	①複数ARマーカを用いたソフトウェアの開発 ②視線入力を用いたコミュニケーションツールの開発 ③3Dプリンタを用いた福祉支援器具の製作 ④IPSを用いたソフトウェアの開発
丹下 裕 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(5E)	①電気磁気学Ⅰ ②回路実習 ③工学基礎研究 ④伝送工学 ⑤シミュレーション工学 ⑥電気情報工学実験ⅣA,ⅣB ⑦卒業研究 ⑧応用通信工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	医用生体工学	①癌温熱治療装置の開発 ②障がい者支援に関する研究
井上 泰仁 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科電気電子システム工学コース長	①電気情報基礎 ②情報数学 ③ディジタル回路 ④論理回路 ⑤電気情報工学実験ⅢA,ⅢB ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧医療工学	情報科学	①膜タンパク質の機能予測 ②プログラミング教育
七森 公碩 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(4E)	①電気情報工学実験ⅠA,ⅠB ②交流回路Ⅰ ③電気機器 ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥卒業研究 ⑦特別研究基礎 ⑧特別研究	パワーエレクトロニクス	①GaN, SiCを用いた高性能電力変換器の開発 ②半導体並列駆動技術に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
森 健太郎 (博士〔シミュレーション学〕)	助教		①電気情報工学実験ⅠA,ⅠB ②C言語 ③プログラミング実習 ④情報システム論 ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別演習	医用画像・信号工学	①医用診断支援システムの開発 ②AIシステムの開発
中川 重康 (博士〔工学〕)	特任教授		①回路実習 ②電気情報工学実験ⅡA,ⅡB ③デジタル信号処理3年 ④デジタル信号処理4年 ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨パワーエレクトロニクス ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	①電力工学 ②太陽エネルギー利用	①デュアル型屋外MPPT評価システムの開発 ②日射量モデルの評価に関する研究

電子制御工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
野間 正泰 (博士〔工学〕)	教授	・ 電子制御工学科長	①力学Ⅰ,Ⅱ ②材料力学Ⅰ,Ⅱ ③水力学Ⅱ ④計測工学Ⅰ ⑤機械工学実験 ⑥卒業研究 ⑦流体力学特論	①トライボロジー ②可視化情報計測	①テラー渦とキャビティ流れの相互作用 ②移動物体まわりの流れの可視化 ③簡易風洞装置の設計製作と理科教育への適用 ④トライボロジー実験教材の開発
仲川 力 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任 (4S) ・ 学術情報センター副センター長 ・ 寮務主事補	①情報処理Ⅲ ②CAD演習ⅠB ③電子制御実験 ④創造設計プロジェクト ⑤CAD演習ⅡC ⑥卒業研究 ⑦特別演習	機械工学	①クローラ走行体の走行性能に関する研究 ②VRを用いたシミュレータの開発と実験
川田 昌克 (博士〔工学〕)	教授	・ 教務主事	①メカトロニクス演習Ⅰ ②制御工学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ ③数値計算法 ④制御工学Ⅰ,Ⅱ(5E) ⑤制御工学実験 ⑥システム制御工学	制御工学	①数値最適化による制御系解析/設計と実システムへの応用 ②制御工学教育のコンテンツ開発
伊藤 稔 (博士〔工学〕)	教授	・ 学術情報センター長 ・ 教務主事補	①メカトロニクス演習Ⅱ ②プログラミングⅠ,Ⅱ ③情報学 ④画像処理 ⑤CAD演習ⅡB ⑥電子制御実験 ⑦卒業研究 ⑧知識情報工学 ⑨特別実験	ソフトコンピューティング	①進化計算の工学的応用 ②SLAMに関する研究
清原 修二 (博士〔工学〕)	准教授	・ 高専機構研究推進・産学連携本部員	①電子制御実習 ②電子工学Ⅰ,Ⅱ ③デジタル電子回路 ④卒業研究 ⑤先端材料工学	①ナノテクノロジー ②超微細加工工学 ③電子・イオンビーム工学	①液滴室温ナノインプリント法による機能性DLCマイクロ・ナノデバイスの開発 ②ナノテクノロジーによる半導体製造装置エンジニアの育成

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
西 佑介 (博士〔工学〕)	准教授	・ 地域共同テクノ センター副セン ター長 ・ 学生主事補	①電子制御実験 ②電気磁気学Ⅰ,Ⅱ ③電子物理 ④卒業研究 ⑤電子回路特論 ⑥エンジニアリン グデザイン演習 ⑦特別研究基礎	①酸化物エレ クトロニク ス ②電子回路 ③半導体工学	①酸化物を用いた抵 抗変化素子の評価 ②アナログ抵抗変化 特性の理論解析 ③学生実験用回路設 計および作製
石川 一平 (博士〔工学〕)	准教授	・ 学級担任(5S)	①電気基礎Ⅰ,Ⅱ ②メカトロニクス 演習Ⅱ ③防災リテラシー ④電子回路Ⅰ,Ⅱ ⑤電子制御実験 ⑥卒業研究 ⑦電子デバイス工 学Ⅱ	①電子物理 ②応用物理 ③材料工学	①微細発光デバイ スの作製 ②プラスチックを用 いた放射線計測に 関する研究
高木 太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 寮務主事補 ・ 進路指導委員会 副委員長(就職)	①CAD演習ⅡA ②システム制御Ⅰ, Ⅱ ③制御工学実験 ④卒業研究 ⑤制御工学特論 ⑥特別実験 ⑦特別演習 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	制御工学	①概強正実性に基 づく適応制御系のモ デルフリー構成法 ②パワーアシストス ーツに関する研究
若林 勇太 (博士〔工学〕)	講師	・ 学級担任(3S)	①振動工学Ⅰ,Ⅱ ②ロボット工学 Ⅰ,Ⅱ ③機械工学実験 ④創造設計プロジ ェクト ⑤卒業研究 ⑥ロボットシステ ム制御 ⑦特別研究基礎 ⑧特別研究	ロボット工学	①人とロボットの協 働作業に関する研 究 ②機械メカニズムに よる省アクチュエ ータ・省センサ化
藤司 純一 (博士〔工学〕)	助教		①電子制御実験 ②組込みシステム Ⅰ ③卒業研究 ④信号処理特論	制御工学	①複数のロボットに よる協調制御系の 構成法 ②非線形システムの フィードバック線 形化

建設システム工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
四蔵 茂雄 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任(5C)	①環境衛生学Ⅰ,Ⅱ ②環境工学Ⅰ ③環境工学Ⅱ ④建設システム工学実験ⅡB ⑤応用測量学Ⅰ,Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦地球環境政策学 ⑧特別演習	①環境工学 ②環境政策学	①途上国のエネルギー環境問題 ②循環型社会形成の政策論
玉田 和也 (博士〔工学〕)	教授	・地域共同テクノ センター長 ・学級担任(3C)	①工学基礎 ②構造力学Ⅲ ③情報処理Ⅱ ④鋼構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤応用構造力学 ⑥卒業研究 ⑦応用構造工学 ⑧メンテナンス工学 ⑨特別研究 ⑩特別実験	①メンテナンス工学 ②橋梁工学 ③構造工学	①地方自治体が管理する橋梁の維持管理 ②橋梁の健全度評価 ③アセットマネジメント ④応急復旧橋の開発 ⑤構造力学教育
尾上 亮介 (博士〔芸術文化学〕)	教授	・建設システム工 学科長 ・学級担任(4C)	①建設システム工学概論Ⅰ ②都市計画 ③建設製図Ⅰ ④建設製図Ⅱ ⑤建設製図制作 ⑥建築計画Ⅱ ⑦建設設計製図Ⅰ ⑧建築デザインⅠ ⑨卒業研究 ⑩特別研究 ⑪まちづくり学 ⑫設計製図	①建築設計 ②都市計画 ③まちづくり	①空き屋の活用に関する研究 ②民家改修における意匠・形態に関する研究 ③歴史的景観を形成する建築意匠に関する研究
加登 文学 (博士〔工学〕)	教授	・専攻科長	①防災リテラシー ②建設システム工学概論Ⅱ ③建設製図制作 ④建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ⑤地盤工学ⅠA,ⅠB ⑥地盤工学Ⅱ ⑦土木計画 ⑧防災工学 ⑨卒業研究 ⑩土木数値解析 ⑪地盤工学設計論	①地盤工学 ②土質力学	①地盤材料の力学特性に関する研究 ②強震動予測に関する研究 ③斜面安全管理に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
徳永 泰伸 (博士〔工学〕)	教授		①建設システム工学概論Ⅰ ②建設製図制作 ③建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ④建築環境Ⅰ,Ⅱ ⑤建築設備Ⅰ,Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦特別実験 ⑧建築環境工学特論	①建築環境学	①室内音環境に関する研究 ②視覚と聴感の相互作用に関する研究 ③室内視環境に関する研究
渡部 昌弘 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科建設工学コース長 ・教務主事補	①建築一般構造 ②建設製図制作 ③建築構造Ⅰ,Ⅱ ④数値解析Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥エンジニアリングデザイン演習 ⑦特別実験 ⑧建築耐震工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	①木質構造学 ②建築構法 ③建築構造	①歴史的木質建築物の構造特性・耐震性能の解明および保存・改修に関する研究 ②木質系構造を有する歴史的文化的資産の復元研究 ③近現代の組積造建築物の構工法・構造特性の解明 ④近代の歴史的遺構の実態調査および保存・再生の提案
毛利 聡 (博士〔工学〕)	准教授	・寮務主事補	①測量実習 ②建設材料学 ③建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ④コンクリート構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤工学演習 ⑥卒業研究 ⑦建設材料特論 ⑧特別研究	①建築材料施工 ②コンクリート工学	①建築部材の補修・改修・維持管理技術の高度化 ②歴史的建造物を含む既存構造物の耐久性評価 ③公共建築物の維持管理 ④施工技術教育
今村 友里子 (博士〔工学〕)	講師		①建設製図Ⅱ ②建築論Ⅰ ③建築論Ⅱ ④建築デザインⅡ ⑤建設設計製図Ⅰ ⑥建築計画Ⅰ ⑦建設計画学 ⑧卒業研究	①建築論 ②建築史	①20世紀建築における制作論 ②近現代建築保存活用
岩木真穂 (修士〔農学〕)	助教		①水理学ⅠA,ⅠB ②水理学ⅡA,ⅡB ③建設システム工学実験ⅡA ④河川工学 ⑤海岸工学 ⑥卒業研究	①地球物理学	①周波数解析を用いた地球環境動態

教 職 員 数

令和4年3月1日現在

校 長		1					
教 員	区 分	教授	准教授	講師	助教	特任等	計
	人 文 科 学 部 門	3	2	3	2	0	10
	自 然 科 学 部 門	3	3	2	1	1	10
	機 械 工 学 科	5	3	0	1	0	9
	電 気 情 報 工 学 科	3	3	1	1	1	9
	電 子 制 御 工 学 科	4	4	1	0	0	9
	建設システム工学科	5	2	1	1	0	9
	計	23	17	8	6	2	56
事 務 職 員	事 務 部 長	1					
	総 務 課	14					
	学生課(看護師含む)	12					
	再 雇 用 事 務 職 員	1					
	計	28					
技 術 職 員	教育研究支援センター	11					
	施 設 系	2					
	再 雇 用 技 術 職 員	2					
	計	15					
非常勤教職員	事 務 補 佐 員 等	34					
	特 命 教 授	1					
	特 命 准 教 授	1					
	特 命 助 教	2					
	非 常 勤 講 師	29					
	学 校 医 等	5					
	計	72					
合 計		171					

注1) 「特任等」…「特任教授」「嘱託教授」

注2) 「事務補佐員等」…「事務補佐員」「技術補佐員」「技能補佐員」「課外活動指導員」「学生寮指導員」「非常勤看護師」

注3) 「学校医等」…「学校医」「学校歯科医」「産業医」「カウンセラー」

学校行事日程

月	日	曜日	行 事 名
4	3	土	開寮
	4	日	入寮式
	5	月	入学式・後援会総会
	6	火	始業式、オリエンテーション、身体計測・心電図・胸部レントゲン
	7	水	授業開始
	8	木	学位申請説明会（専攻科1年生）
	12	月	交通安全講習会（本科2・3・4年生・専攻科）
	14	水	交通安全講習会（5年生）
	16	金	新入生研修（～17日）
	26	月	開校記念日
5	29	木	授業あり 昭和の日
	13	木	臨時休校（～19日）
	20	木	遠隔授業（～21日）
	24	月	対面授業再開
	27	木	火曜授業
6	28	金	特別授業
	1	火	学位申請説明会（専攻科2年生）
	8	火	本科前期中間試験（～11日，4年生のみ～14日）
	12	土	公開講座 先どりプログラミング教室「LEGOによるロボット制作とiPadプログラミング」，「小さなコンピュータを利用したプログラミング」
	14	月	4年生：（午前）前期中間試験・（午後）特別授業，4年生以外：特別授業
	19	土	編入学試験
	20	日	専攻科学力検査選抜試験（前期A・B）
7	26	土	あやべ理工系ことはじめ教室「クレーンを作って遊ぼう！」，「プログラム＋電気回路＝オリジナルイルミネーション」
	3	土	近畿地区高専体育大会（バスケットボール）（～4日）
	11	日	近畿地区高専体育大会（柔道）
	13	火	臨時休校分を含む授業（～19日）

月	日	曜日	行 事 名
7	17	土	公開講座「遊んで、学ぶ。不思議なパズルとフィボナッチ数列」
	18	日	オンライン女子会 あやべ理工系ことはじめ教室「フェイスシールドを設計しよう！」，「住吉の長屋の模型を造る」
	22	木	授業あり 海の日
	23	金	授業あり スポーツの日
	24	土	公開講座「ユカイな生き物ロボットをつくろう（小学生の部）」
	27	火	特別授業
	28	水	本科・専攻科前期期末試験（～8月4日）
	30	金	学位申請説明会2（専攻科2年生）
8	1	日	公開講座「小さなコンピュータを使ったシステム開発体験」，「Scratchを体験しよう」
	5	木	夏季休業（～9月20日），開寮（～6日）
	7	土	オープンキャンパス（～9日）
	10	火	一斉休業
9	18	水	公開講座「夏休み親子工作教室～太陽電池を使ったものづくり～」
	20	月	公開講座「ゲーム開発を体験しよう！」（オンライン開催）
	21	火	後期授業開始（遠隔）（～24日）
	23	木	公開講座「リモコンロボットをつくろう（中学生の部）」（オンライン開催）
	25	土	開寮（～26日）
10	27	月	対面授業再開 特別授業，前期到達度確認期間（～29日）
	29	水	前期授業アンケート（～10月8日）
	2	土	公開講座「POV-RayによるCG制作を体験しよう」
	3	日	キラキラ女子会
	9	土	プロコン全国大会（～10日） 公開講座「身近なものを使ってIoTを体験してみよう」，「住宅建築模型制作 篠原一男 白の家」
	11	月	防災訓練
	12	火	特別研究基礎中間発表（専攻科1年生）
	16	土	公開講座「3D-CADを使ってみよう！パソコンで3Dモデル組立て」

月	日	曜日	行 事 名
10	17	日	専攻科学力検査選抜試験（後期）・社会人特別選抜 公開講座「住宅建築模型制作 安藤忠雄 住吉の長屋」
	19	火	午前：英語デー 午後：特別授業
	22	金	後援会支部総会（丹後但馬・中丹・南丹）
	23	土	公開講座「住宅建築模型制作 前川國男自邸」
	24	日	あやべ理工系ことはじめ教室「作ろう！カラフルLEDランタン」
	25	月	後援会支部総会（兵庫・福井・滋賀）
	27	水	後援会支部総会（京都・舞鶴）
	29	金	午前：特別授業 午後：高専祭準備
	30	土	高専祭 公開講座「光であそぼう@高専祭」, 「ユカイな生き物ロボットをつくろう（小学生の部）競技会」
	31	日	午前：高専祭 午後：高専祭後片付け ロボコン近畿地区大会 公開講座「光であそぼう@高専祭」, 「リモコンロボットをつくろう（中学生の部）競技会」
11	3	水	公開講座「小・中学生のためのナノテクノロジー体験教室」,「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！～模型で学ぶ橋の仕組みと形～」, 「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体～を作ろう！」
	6	土	公開講座「遊んで、学ぶ。太陽を観察しよう」,「3Dプリンターによる立体造形プログラミング入門」,「水をきれいにする試みー快適な環境の創造実験ー」
	7	日	舞鶴高専杯プログラミングコンテスト
	13	土	公開講座「クレーンを作って遊ぼう！」,「中学理科復習シリーズ第2弾【実験】電気分解とイオン」,「住宅建築模型制作 篠原一男 白の家」
	14	日	公開講座「『お絵描きプログラミング』にチャレンジ!」,「クレーンを作って遊ぼう!」,「カレンダーと数学」,「折り紙と数学」
	18	木	特別授業
	19	金	本科後期中間試験（～26日）

月	日	曜日	行 事 名
11	20	土	公開講座「遊んで、学ぶ。いろんな計算機で平方根を計算しよう」
	27	土	公開講座「AIにチャレンジ!」
	28	日	ロボコン全国大会 公開講座「作って学ぼう!～ストロー多面体～」
12	4	土	合同学校説明会 デザコン全国大会（～5日） 公開講座「ピカピカ光る! クリスマスオブジェ作り」
	10	金	午前：金曜午前授業 午後：キャリアセミナー準備, CBT関係
	11	土	キャリアセミナー（～12日）
	14	火	金曜授業
	21	火	特別研究発表会（専攻科2年生）
	25	土	特別選抜入試〔地域創生型〕閉寮
	27	月	冬季休業（～1月7日）
	8	土	特別選抜入試〔一般選抜型〕
	10	月	開寮
	14	金	臨時休業
1	17	月	遠隔授業（～2月4日）
	25	火	特別研究基礎発表会（専攻科1年生）
	2	水	特別授業（遠隔）
	7	月	（本科1～5年生・専攻科1年生）後期 期末試験（～10日）
	11	金	閉寮（～12日）
2	13	日	学力検査選抜 帰国生徒特別選抜
	14	月	臨時休業
	15	火	特別授業（遠隔）
	16	水	試験返却等到達度確認期間（遠隔）, 後期授業アンケート（～28日）
	27	日	学力検査選抜（追試験）
	6	日	入学説明会
	7	月	再試験期間（～17日）
3	12	土	進路に関する三者懇談会（～13日）
	18	金	卒業証書・修了証書授与式
	20	日	公開講座「数式展覧会」